

地域の文化と 伝統をつなぐ

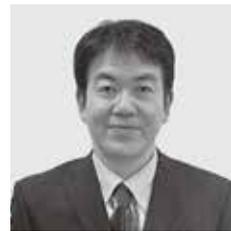
—高橋九郎生誕165周年を
記念する活動—

平成28年度 学生による地域活性化プログラム

高橋治道ゼミナール 活動報告書



ごあいさつ



長岡大学 学長 村山 光博

長岡大学の「学生による地域活性化プログラム」は、平成19年度に文部科学省の現代的教育ニーズ取組支援プログラム(現代GP)に採択された「学生による地域活性化提案プログラム 一政策対応型専門人材の育成一」に始まり、今年度で10年を迎えることができました。これまで長きにわたりこの取り組みを続けて来られたのは、地域の皆様の暖かいご支援とご指導の賜物と、深く感謝しております。まだ十分には地域の活性化に貢献しているとは言えませんが、このプログラムの取り組みを始めた10年前と比較すると、周辺地域における「学生による地域活性化プログラム」の認知度は明らかに高まってきていると感じております。これまで本プログラムの運営において積極にご協力をいただいていた地域連携アドバイザーだけでなく、たくさんの地域の方々からも本プログラムの個々の取り組みテーマに対するお問い合わせや称賛の声をいただいております。また、これらの学生の取り組みに関して、新聞やテレビなどのマスメディアでも大きく取り上げていただくことが多くなりました。

長岡大学の建学の精神は、

- ・幅広い職業人としての人づくりと実学実践教育の推進
- ・地域社会に貢献し得る人材の育成

です。本プログラムは、まさにこの精神を実現するための本学の中心となる教育プログラムであると言えます。

「地域活性化とは何か」という問いに対する明確な答えは無いと思いますが、本プログラムでは、答えの無い課題に対して、どのように考え、どのように行動して行くのかを学生が自ら試行錯誤しながら体得していくことができます。大学を卒業して地域社会の一員となる学生たちが、これからの地域が抱える課題に積極的に取り組んでいくことを期待されることを考えると、彼らにとってこれらの体験は貴重なものとなると思います。

本プログラムでは、各ゼミナールでテーマを設定し、ゼミに所属する学生のグループが活動を進めて行くこととなりますが、時には学生同士の意見の食い違いや、ちょっとしたすれ違いが起きることもあります。このような体験も学生がさらに一回り成長する要素となります。ゼミで決めた研究テーマをまとめ上げるために、どのように他者とかかわりながら取り組みを進めて行くべきなのか、この取り組みの中で自分の役割は何であるのか、などを考えながら活動を行っていくことで、チームで活動することの難しさだけでなく、チームで何かをやり遂げたことの充実感や達成感を味わうことができます。

長岡大学の「学生による地域活性化プログラム」では、学生が地域の皆様と一緒に汗をかき、考え、そして楽しむことで、目先の地域貢献活動だけでなく、将来にわたって地域の活性化を担っていける人材の育成を目指しております。

地域の皆様には、日頃より本プログラムへの多大なるご支援とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

平成29年3月

はじめに

地域の文化と伝統をつなぐ ～高橋九郎生誕165周年を記念する活動～



長岡大学教授／ゼミ担当教員 高橋 治道

高橋ゼミは、長岡大学の「学生による地域活性化提案プログラム（現在の“学生による地域活性化プログラム”）」が平成19年文部科学省の“現代的教育ニーズ取組支援プログラムに採択されて以来、プログラムに参加しています。

平成20年度は、長岡市が平成18年に策定した「長岡市総合計画前期基本計画」にある「安全・安心」に関する基本施策の具体化に取り組みました。その取り組みの中で、安全・安心に関する若者への意識調査を行ったところ、「豊かで安全で安心して暮らせる地域づくり」の基本は「地域コミュニティづくり」ではないか」とのコメントが書かれていました。

そこで、平成21年以降現在に至るまでの7年間「地域コミュニティを中心とした豊かで安全・安心な暮らし」を中心テーマにして、長岡市神谷地区で活動を行っています。神谷地区は、旧三島郡来迎寺村一帯の大地主である高橋家と旧来迎寺村役場が所在した場所だったことから、歴史的遺産や建造物が豊富にあり、かつ地域コミュニティの機能がしっかりして地域全体の一体感が強く、そのうえ行政に頼るのではなく自分たちの手で地域づくりを行うことを積極的に推進している地区です。

神谷地区におけるこれまでの取り組みでは、地域活性化の要因を明らかにする、地域に現存する歴史的建造物“旧神谷信用組合の建物”と“耕作されず放置されている畑”の活用方法を考える、神谷地域の歴史的建造物や史実などを紹介する“神谷情報マップ”作り、神谷の中を流れる“須川”Eボートで下るイベントの企画、もみじ園作った高橋九郎の人物像と功績を紹介する“高橋九郎マップ”作りなどの課題に取り組んできました。

これらの取り組みを行う中で、現在の神谷の基礎を作ったのが、神谷在住の大地主高橋家10代目の当主であった高橋九郎であることを知りました。さらに、昨年度の活動の中で、平成28年が、高橋九郎の生誕165年という節目の年であることが分かりました。没後95年が経ち、氏の功績を語る人が神谷の中でも少なくなり、このままでは歴史の中に埋もれてしまうことが考えられました。おりしも、地方創生が叫ばれている今日、高橋九郎が地域のために行った各種の試みは、まさに地方創生の先駆けともいえるものであり、これを後世に伝え残すことは現代に生きる私たちの責任であるといえます。

生誕165周年目にあたる今年こそ、氏が地域のために行った様々な取り組みと成果を地域に伝え残すまたとない機会をとらえ、今年度のゼミ活動の課題として取り上げることにしました。

ゼミ生たちは4月から準備を始め、昨年度作成した「高橋九郎マップ」の配布を通して氏の存在を広めことから活動を始めました。その後は、越路地域の諸団体に働きかけを行いながら「資料展示と記念シンポジウム開催」という記念行事開催に向けた活動を行ってきました。そのかいあって、11月6日に高橋九郎が開いたもみじ園において、定員いっぱい50名の参加を得て、「高橋九郎生誕165周年記念シンポジウム」を開催することができました。また、このシンポジウムに合わせて開催した資料展にも多くの人から訪問していただき、こちらも大成功のうちを終えることができました。

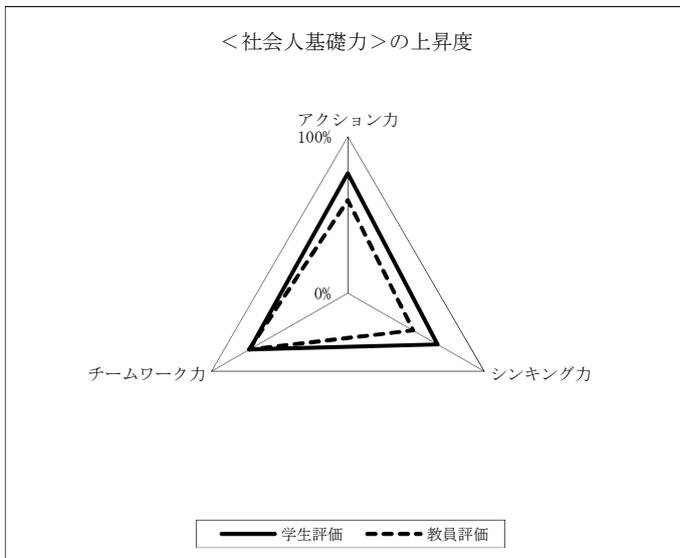
活動当初は、果たしてできるものかと心配もしましたが、神谷の歴史・文化の会様、越路観光協会様、越路もみじの会様、長岡市役所越路支所産業建設課様をはじめとする多くの皆様、団体のご協力のおかげと感謝しております。この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

この活動を通して学生たちは、大きく成長しました。これもひとえに皆様方のおかげと感謝しつつ、今後ともご指導ご鞭撻くださるようお願い申し上げます。

平成29年3月

平成 28 年度 学生による地域活性化プログラム 社会人基礎力の上昇度

地域活性化プログラムにおける学生教育の目標は、社会人基礎力の向上、ビジネス展開能力の向上、専門的スキルの向上が目的である。平成 28 年度学生による地域活性化プログラムに参加した 8 取組の学生の「社会人基礎力」の伸び具合について、学生とゼミ担当教員にアンケートを実施した。アンケートは取組に参加した学生一人一人を対象に、社会人基礎力の変化を評価する形で実施した。学生は自己評価（有効回収 64）であり、教員は各ゼミ生についての評価である。



★「社会人基礎力」

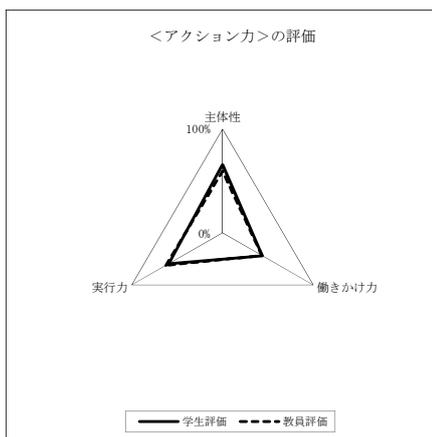
＝「アクションカ」「シンキングカ」「チームワークカ」が上昇

3つの社会人基礎力の上昇度（取組前と取組後の比較）は、学生の自己評価と教員評価の間に乖離がある。学生の評価が高いのがアクションカで、地域活性化プログラムの取り組みの中で、学生が自分なりに挑戦している姿勢がうかがえる。

今後の取組においては、今年度の結果に現れている学生評価と教員評価の差を小さくすると同時に全体的な上昇度を高めていくことに対して、継続的に検討していく必要がある。

＜社会人基礎力＞の上昇度

	学生評価	教員評価
アクションカ	76.6%	59.4%
シンキングカ	65.6%	47.8%
チームワーク	71.9%	72.1%

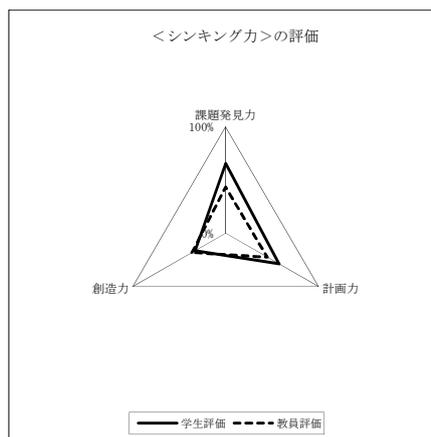


	学生評価	教員評価
主体性	65.6%	59.4%
働きかけ力	43.8%	43.5%
実行力	59.4%	62.3%

＜アクションカ＞

アクションカの3つの指標を比較すると、主体的には取り組めたと感じている学生の割合は高いが、教員の評価は低くなっている。

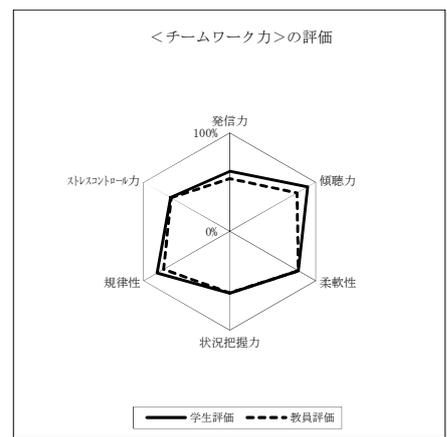
学生はそれなりに積極的に活動を行っていると感じている一方で、教員は、もう一歩踏み出してほしいという期待感を持っているようである。



	学生評価	教員評価
課題発見力	65.6%	43.5%
計画力	57.8%	44.9%
創造力	32.8%	36.2%

＜シンキングカ＞

学生の自己評価では、課題は見つけられたが、自分で計画して課題に立ち向かい、課題解決ができた学生は少なく、また創造力が極端に低くなっている。また、教員評価でも創造力については厳しいものになっている。昨年同様、シンキング力が弱い傾向があり、この点をどのようにして伸ばしていくかが課題として残った形である。



	学生評価	教員評価
発信力	60.9%	53.6%
傾聴力	90.6%	78.3%
柔軟性	79.7%	79.7%
状況把握力	62.5%	62.3%
規律性	84.4%	76.8%
ストレスコントロール力	68.8%	68.1%

＜チームワークカ＞

チームワーク力は、「アクションカ」や「シンキングカ」よりも学生評価と教員評価の類似性が高い。

学生の自己評価も同様であるが、教員の評価が発信力と状況把握力が低い点は、今後指導を強めていく必要がある。

平成28年度 学生による地域活性化プログラム

高橋治道
ゼミナール

地域の文化と伝統をつなぐ ～高橋九郎生誕 165 周年を記念する活動～



【参加学生】

4 年生 板谷千紀 今井練 高野奏翔 山田大智
3 年生 黒田陽一 周文 中村涼平

【アドバイザー】 神谷区長 白井 湛氏

NPO 法人ながおか生活情報交流ねっと 理事長 桑原眞二氏
越路もみじの会 代表 廣川篤氏

取り組みの目的

長岡市神谷地区における 7 年間の取り組みを通して、明治時代後半に生きた高橋家の 10 代目当主高橋九郎が現在の神谷やもみじ園の基礎を作ったことを知った。しかし、亡くなってから 95 年が過ぎ、神谷や地域の人たちの間からその史実が忘れ去られようとしている。そこで、地域のために尽くした氏の功績を神谷の人達やもみじ園を訪れた人たちに知らせ、後世に伝え残すことを目的として、本年が氏の生誕 165 年目の節目の年であることから、資料展示と講演のための生誕 165 周年記念事業を企画した。

取り組みの意義

高橋九郎が行っていた様々な試みは非常に先駆的なものであり、今で言う地方創生に相当するものである。明治時代に地域復興に力を注いだ氏の存在と業績は神谷地区を初め旧来迎寺村一帯の大きな財産であり、その人物像や業績を地域住民や関心を持つ人々に伝えていくことは地域の伝統と誇りを後世に伝え残すことにつながり、地域に活力をもたらし、地域の活性化につながる非常に意義深いものである。

取り組みの成果

越路観光協会様、越路もみじの会様、長岡市役所越路支所産業建設課様をはじめとする多くの皆様、団体のご協力で、11月6日に高橋九郎ゆかりのもみじ園において「高橋九郎翁生誕165周年記念シンポジウム」を開催した。長岡大学教授松本和明による講演の後、「地方創生時代に九郎翁から学ぶことは！」というテーマで6人のパネリストで活発な討論を行った。また、このシンポジウムに合わせて、11月5、6、12、13日の4日間、神谷の「歴史・文化の会」や市内在住の収集家からご協力いただいた写真や古文書の資料展示展を開催した。この資料展では、ゼミ生が展示資料の説明を行った。訪問者からは、高橋九郎のことを知ることができたなどの意見が寄せられた。またこれをきっかけに、高橋九郎に関する常設展示場設置の計画が検討されている。

シンポジウムの様子



ゼミ学生による展示資料の説明



地域の文化と伝統をつなぐ

～高橋九郎生誕165周年を記念する活動～

高橋ゼミナール

4年	13M035	山田 大智	13E004	板谷 千紀
	13M019	高野 奏翔	13E005	今井 練
3年	14K067	中村 涼平	14K030	黒田 陽一
	14K048	周 文		

目 次

1. はじめに	1
1.1 取り組みの趣旨	1
1.2 取り組みの目的	1
1.3 取り組みの概要	2
2. 神谷地区の概要	2
3. 高橋九郎の紹介	3
4. 高橋九郎マップ	6
4.1 マップの配布	6
4.2 高橋九郎マップについて	7
4.2.1 人物活動の概要紹介	
4.2.2 活動の概要紹介	
4.2.3 業績紹介	
4.2.4 ゆかりの場所	
4.2.5 その他	
5. 生誕165周年記念事業	13
5.1 記念事業の概要	13
5.2 資料展示	16
5.2.1 展示資料の作成	
5.2.2 学園祭での展示	
5.2.3 もみじ園での展示	
5.3 生誕165周年記念シンポジウム	30
5.3.1 共催・後援団体	
5.3.2 シンポジウム	
5.3.3 アンケート結果	
6. 成果発表会	37
7. まとめ	37

参考資料

謝辞

1. はじめに

1. 1 取り組みの趣旨

地方創生という言葉がある。もともとは第二次安倍内閣発足時に掲げられた政策のキーワードのひとつとして使われた言葉である。しかし、今ではこの言葉の意味や使われ方は当時とは異なり、「国内の各地域・地方が、それぞれの特徴を生かした自律的で持続的な社会をかたちづくること。魅力あふれる地方のあり方を築くこと。」というような使われ方をしている。

私たちは、「魅力あふれる地方を築く」には、その地域がもつ魅力を知り、それを地域住民の共通の財産として守りつつ活用した試みを行うことが第一歩であると考えている。そこで、地域コミュニティが機能し、他地域と比較して地域住民の一体感が強い長岡市神谷地区において、地域の魅力を見出し、その魅力を生かした地域活性化の試みを地域活性化プログラムの取り組みとして行っている。

この活動を通して、現在の神谷地区は、明治時代の大地主であった高橋九郎によってその基礎が作られたことを知った。しかし時間が過ぎるとともに高橋九郎のことは忘れ去られ、氏のことを知っている人が今ではあまり残っていないということも知った。明治時代に地域復興に力を注いだ高橋九郎は神谷地区の大きな財産であり、その人物像や業績を若い世代に伝えていくことは地域の伝統と誇りを後世に伝え残すことに通ずる。また、高橋九郎のことを広く PR することで神谷を盛り上げることもできる。これは「自分たちの地域は自分たちで守っていく」という神谷地区の地域活性化に対する考え方にも沿っている。

高橋九郎が行っていた様々な業績は、今で言う地方創生であり、私達がゼミナール活動などを通じて高橋九郎について調査しそれを広めることもまた地方創生につながる。

今年が高橋九郎の生誕165周年の年であることから、あらためて、その人物像と業績を地域の人に知らせることは、非常に意義のあることだと考える。

1. 2 活動の目的

地域創生で言われている「各地域や地方が持つ特徴を生かした自律的で持続的な社会をかたちづくり、魅力あふれる地方を築く」には、自分たちの住む地域の歴史と伝統を知ることを通して、地域に対する誇りと愛着を持つことがまず第一歩である。

そこで、旧来迎寺村一帯の土地を所有した大地主が在住し、旧神谷信用組合や旧来迎寺村役場が在った長岡市神谷地区に残る伝統・歴史・文化・史実を明らかにし、それらを地域の魅力として紹介・発信する活動を神谷地区に於いて7年間にわたって行ってきた。

そうした中、今年が高橋九郎の生誕165年の節目の年であることから、これまでの調査で明らかにしてきた事柄を「高橋九郎」をキーワードにして自分たちなりにまとめ、その成果を「高橋九郎生誕165周年記念事業」という取り組みを行う中で発表することにした。

この取り組みを行う目的は、取り組みを通して高橋九郎のことを神谷地域だけでなく新潟県全域や県外の人々にも知らせ、後世につなげる糸口を作ることである。また、神谷の人々には、地域振興に人生をささげ、地域の発展に尽力した高橋九郎という素晴らしい人物を輩出した地域であるという誇りと郷土に対する愛着を持ち続けてもらうことである。

1. 3 取り組みの概要

今年度は「高橋九郎生誕165周年記念事業の開催」を地域活性化プログラムの取り組み課題にすることを決め、4月の段階からこの記念事業開催に向けた活動を行った。

初めに、高橋九郎の業績などを広めることにし、昨年度のゼミナール活動で作成した「高橋九郎マップ」の配布活動を行った。配布先には、高橋九郎が作ったもみじ園や多くの市民が集まる長岡市民協働センター、越路地域の「まちの駅」を選んだ。

次に、紅葉が紅葉するころに高橋九郎の別荘であった「もみじ園」で毎年開催される「もみじ祭り」での「もみじ園の一般開放」に合わせて、高橋九郎についての資料展示と記念講演会（後に、正式名称を「高橋九郎翁生誕165周年記念シンポジウム」とした）を開催する取り組みを行った。この取り組みでは、記念シンポジウムの開催にむけた共催・後援要請活動、シンポジウムの内容の企画、開催日当日の事務作業を行った。

さらに、このシンポジウム開催と一緒に企画した「高橋九郎ゆかりの資料展」では、展示資料の作成、展示資料の説明を行った。展示した資料は、n 神谷地区の「歴史・文化の会」が収集保管する写真・資料や長岡市内の歴史愛好家が収集された資料を貸していただいた。しかしこれらの資料は貴重なものばかりであるため、防犯上のことも考えて現物を展示することは避け、コピーを作成して展示した。

2. 神谷地区の概要

長岡市神谷地区は、信濃川と渋海川に挟まれた長岡市南部（旧越路町の東部）の平野部に位置し、周りを田んぼに取り囲まれた現代日本の平均的な農村地域である。地区には、戦後の農地解放が行われるまでこの地域一帯の土地を所有していた大地主高橋家が在住していた。また、昭和30年3月に来迎寺・岩塚村・塚山村・石津村が合併して越路町が誕生するまでの間、旧来迎寺村の村役場が所在した地でもある。さらに、明治37年に設立された神谷信用組合が所在した歴史に富んだところでもある。

その上、1850年に高橋家の長男として生まれた高橋九郎（明治44年に帝国議会の衆議院議員）が地域の農業振興に力を注いだことから、地域の産業活性化への取り組みが古くから行われ、新潟県の県花であるチューリップが県内で初めて開花した地でもある。

現在も米作を中心とする農業地域ではあるが、サラリーマンとして働いている農家が大半を占めている。現在の戸数は約160戸、人口は約630人である。その約25%はここ20数年間の間に2度にわたって行われた宅地造成によって他の地区から移り住んできた人たちで構成されている。そのため、都市化が進む大中都市周辺の農村地域同様に、古くからの住人と新興住宅地の住民との間の協調を課題として抱えている地域である。

3. 高橋九郎の紹介

1850年（嘉永3年）に高橋家9代目初の長子として生まれた。幼名は繁太郎、後に右八郎に名乗った、父亡き後は10代目の家督を相続し、父名の九郎を継いだ。

1864年（元治元年）から1869年（明治2年）まで小千谷市片貝町の私塾「耕読堂」で丸山貝陵より漢学を学んだ。1870年（明治3年）から1873年（明治7年）までは、浦の私塾「慈光齋」で旧長岡藩校崇徳館都講木村鈍叟より漢学を学ぶと同時に優れた数理能力をみがいた。この私塾での学びを通してその後の人生に於いて大きなかわりを持つことになる石黒忠恵や井上円了などと出会い、自らの飛躍のための人的基盤を得た。

1894年（明治27年）3月に行われた帝国議会の第三回衆議院選挙にて当選し、当時の来迎寺村における初の帝国議會議員となった。旧越路町域出身の国会議員は、後に大地主互選の貴族院議員に当選した塚山出身の長谷川赳夫氏の2人だけである。後に東京に出て活躍する長谷川氏に対して、高橋九郎は議員時代もその関心を地元地域へ向けていた。

その後、神谷信用組合の創設など、経営者としての才覚も発揮する。幼時に学んだ「修身・齐家・治国・平天下」を一生の信念としていた。時鐘及び私設气象台の設置、共同苗代の導入、土地改良の推進など、その生涯を地元地域の発展に捧げた。

地域の名望家として高橋九郎氏は、1878年（明治11年）に十六大区小六区受け持ちの副大区長に就任した。その後1881年（明治14年）には、宮川外新田・道半両村の戸長に選出（公選）された。1884年（明治17年）からは、宮川外新田はじめ10ヶ村連合の戸長に推された。若くして既に地域住民から敬慕を集めていたことを伺わせる。また同時期に、自宅の倉庫屋上に時鐘を設置した。当時、農家に時計はなく、時間を知るすべがなかったことから、鐘を鳴らすことによって田畑に働く人々に時を知らせていた。鐘は、昼食の準備を知らせるために午前11時に1回、亭主の帰宅を促すために午前零時に1回鳴らしていた。これは釣鐘が廃止されるまでの53年間継続された。昼食の準備の時を知らせる風習は、午前11時にサイレンを鳴らすという形で現在も神谷に引き継がれ、地元住民にとっては馴染み深いものとなっている。

高橋九郎氏が地域住民から信頼と敬慕を得て、地域自治に参画していく契機となったとされているのが、家督相続後間もなく参画した地租改正事業に尽力したことである。これは各地域において長い年月と費用を要した大事業であり、当時20歳代であった高橋九郎はその優れた測量技術と熱心な公共精神が認められ、これに関わる測量業務の遂行者に選ばれた。

高橋九郎の独創的な発想の1つに、1906年（明治39年）に設置した私設气象台がある。これは農業にとって気象情報が必要であると考えてのものであり、高橋九郎は自記晴雨計と自記温度計を購入し、自宅前に百葉箱を設けて気象観測を行った。また新潟測候所へ毎日連絡をして得た天気予報を竿頭に信号旗として掲げ、地域住民にその日の天気を知らせた。農業はもちろんのこと、付近の小学校はこの予報を頼りに屋外諸行事を行った

図表3-1 高橋九郎



といわれている。

1908年（明治41年）には、宮川外新田・道半地区の土地改良を推進した。信濃川と渋海川に挟まれた農村集落における最大の課題は、洪水対策であった。農民の協力を得ながら村中を流れる須川の水路の付け替えなどを行い、耕地整理を施工した。また、県外から技術者を招き、暗渠排水を施工し、成功させた。これにより農民の苦労は軽減するとともに収量の増大に結びつき、大変喜ばれた。

高橋九郎は1916年（大正5年）66歳で病のために退隠するまで、視線を地域振興に置いて篤農家・起業家・地方政治家とし明治を生き抜いた。

1904年、54歳の時、不慮の自然災害に対する復旧や耕地開発・改良、副業の導入等の生活基盤向上のために、県下初の信用組合となる神谷信用組合を設立し、経営に当たった。組合員には自発性を促し、督励して好業績を上げ、明治43年には大日本産業組合新潟支部より表彰されている。

1908年（明治41年）には、宮川外新田・道半地区の土地改良を推進した。このころ、高橋九郎は農家に果樹園芸等の副業を奨励し、チューリップを県内で最初に導入した。

1916年（大正5年）に地域振興にかかわる多大の貢献により藍綬褒賞を受賞している。

1920年（大正9年）70歳で神谷信用組合の組合長辞任したのを最後に一切の公務から身を引いた。

1922年（大正11年）9月72歳で逝去した。

これらの活躍を年表にして図表3-2に示した。

図表 3-2 高橋九郎の年表

高橋九郎年表

- 1850年(嘉永3年) 12月27日 長岡藩西組宮川(現長岡市神谷)の庄屋高橋九郎右衛門の長子として誕生。
 - 1852年(嘉永5年) 南魚沼郡敷神村大字後山(現在の南魚沼市野江乙)で1100年以上の伝統を誇る、母・祖母の実家の親戚にあたる佐藤家へ後継養子に入る。
 - 1884年(元治元年) 高橋家に男子が誕生しなかったために生家に戻る。
隣村片貝の【講談堂-丸山貝陸塾-】(現小千谷市片貝町浄照寺境内)に入門。石黒忠憲(後の軍医総監、日本赤十字社長、樞密顧問、正二位子爵)との交流始まる。
 - 1870年(明治3年) 浦私塾「慈光堂」において木村純賢(本名を誠一郎、旧長岡藩校崇徳館都講)に就いて漢学を深める(1871年まで)。
 - 1873年(明治6年) 8月14日 公立の外新田校(小学校)が宮川外新田に開校。明治42年には基本金を設立し、利子をもって学校の経費に充当し、学区民からは教育費を徴収せず。
 - 1878年(明治11年) 第十六大区小六区戸長に就任。
 - 1880年(明治13年) 父高橋九郎右衛門の死去により家督を継承。
 - 1881年(明治14年) 12月 宮川外新田・道半両村の戸長に選出(公選)。
 - 1882年(明治15年) 時の鐘を自宅土蔵の上に設置し、毎日午前11時と夜12時に時を知らせた。
神谷では、現在も午前11時になると火の見櫓のサイレンが時を知らせる。
 - 1882年(明治15年) 時の鐘を自宅土蔵の上に設置し、毎日午前11時と夜12時に時を知らせた。
神谷では、現在も午前11時になると火の見櫓のサイレンが時を知らせる。
 - 1884年(明治17年) 8月 宮川外新田はじめ10か村連合の戸長となる。
 - 1888年(明治21年) 村会議員に就任(晩年に至るまで)。
 - 1891年(明治24年) 村内救民に救助米を施興。
 - 1894年(明治27年) 3月 帝国議会の衆議院議員となり、第六回帝国議会に出席。
 - 1896年(明治29年) 神谷信用組合を設立。
 - 1896年(明治29年) 巴ヶ丘別邸(現もみじ園)を建築。
 - 1898年(明治31年) 8月 帝国議会の衆議院議員に再任。一三回、十四回、十五回、十六回の帝国議会に出席。
 - 1903年(明治36年) 蘭草苗を岡山より移入し、栽培を奨励。豊表工場を作り普及に力を注ぐ。
 - 1904年(明治37年) チューリップ球根を入手し、譲り受けた同村水島義郎氏が県内で初めて開花に成功。
 - 1906年(明治39年) 私設気象台を開設し、気象旗掲揚による天気予報の告知開始。以後40年間、ラジオが普及するまでの40年間続けられた。
 - 1908年(明治41年) 宮川外新田・道半地区の土地改良を推進。
 - 1908年(明治41年) 共同苗代一町歩を設置。
 - 1908年(明治41年) 2月 来迎寺村村長に就任(明治45年3月まで)。
 - 1904年(明治37年) 神谷信用組合を設立。初代組合長となる。
 - 1911年(明治44年) 9月9日 ウェップ夫婦による神谷信用合などの調査。巴ヶ丘別邸(現もみじ園)に1泊。
 - 1911年(明治44年) 小作米品評会開催。100年以上の小作継続者を表彰。
 - 1914年(大正3年) 8月 信濃川大洪水。神谷信用組合は水害救済のために式萬円の貸出を行う。
 - 1916年(大正5年) 10月25日 神谷銀行を設立(1934年4月第六九銀行と合併)。
 - 1916年(大正5年) 勅定藍綬褒章を賜る。
 - 1922年(大正11年) 9月21日 永眠 享年七十三歳。
- その他
- 銀行経営に関与：第六九銀行、与板銀行、関原銀行、新潟県農工銀行の経営に関与。
 - 鉄道事業への関わり：北越鉄道(現 JR 信越本線)の現ルートを推進、両毛鉄道の第2位の大株主、毛越鉄道の計画に関係。
 - 日本石油会社(現 JR 日鉱日石エネルギー)の設立：殖産協会に参画、設立発起人に名を連ねる。
 - 銀山殖産株式会社の設立：取締役、北魚沼郡湯之谷村下枝折字赤川の大規模開発を計画。
 - 長岡病院(現長岡赤十字病院)の設立：病院設立に際し、石黒忠憲に相談。創設時の医師の大方を石黒氏が斡旋。
 - ソメイヨシノ桜：巴ヶ丘に移植し、新潟県で育つことが確認できた後、悠久山に植えられた。
 - 言い伝え：神谷中央公園(旧果樹園跡)内に現存するプラタナスの大樹は、高橋九郎さんが移植したものだと言われている。高橋家と神谷小学校との境界の石垣にもかなりの数のプラタナスの大木が植わっていた。

4. 高橋九郎マップの配布

4. 1 マップの配布

昨年度の活動で作成した「高橋九郎マップ」は、長岡市神谷地区へは完成後直ちに回覧板を使って全世帯へ配布したが、年度末ということもあって、それ以外のところへは配布することができなかった。

そこで、今年度の最初の活動として高橋九郎マップの配布を行った。配布場所は、高橋九郎とのかかわりが強い越路地区を訪問する人や住民の方々が訪れる所、また市民活動に興味を持つ人が多く訪れる市の施設とすることにした。種々検討した結果、下記の6ヶ所を訪問し、マップの配置をお願いした。

5月10日 長岡市民協働センター様

5月17日 長岡市役所越路支所様、もみじ園様

5月24日 ドリーム岩塚様、井口製材所様、岡鶴堂様

これらの施設への訪問では、電話で訪ずれる日時のアポイントメントを予め取ってから訪問し、マップ作製の趣旨や高橋九郎の業績などについて説明したうえで配置のお願いをした。これらの活動とは別に、鯉江ゼミナールが「まちの駅」をテーマにした地域活性化の取り組みの中で訪問した「ビューティーたちばな」様からは是非マップを置かせてほしいとの連絡が大学にあり、置かせてもらいました。また、「越路もみじの会」の関係で朝日酒造(株)の「あさひ山蛸庵」様にも置かせてもらいました。

図表 4-1-1 市民協働センター



図表 4-1-2 もみじ園正面



図表 4-1-3 ドリーム岩塚



図表 4-1-4 (株)井口製材所



4. 2 高橋九郎マップについて

昨年度の地域活性化プログラムの取り組みで作成した高橋九郎マップの配布活動を今年の活動で行ったので、マップについて簡単に紹介する。

高橋九郎マップは、神谷に在住した高橋九郎の活躍を多くの方々に伝えることを目的に作成したものである。高橋九郎の簡単な人物紹介と活動の概要、業績（政治家として業績、地主としての業績、企業家としての業績、その他）、神谷に残るゆかりの場所、年表をA-3用紙の裏表にまとめ、このパンフレット一つで高橋九郎のすべてがわかるように工夫して作ったものである。

4. 2. 1 人物活動の概要紹介

高橋九郎の人物を簡単に紹介するために、高橋家9代目当主の長男として1850年に生まれたことや小作人を大切に「家族的親愛＝協調性をもって接する」ことを信条にしていたことについて1ページ目に記述した（図表4-2-1）。

4. 2. 2 活動の概要紹介

神谷のみならず地域のために行った産業基盤向上のための事業や神谷信用組合の設立・経営、信越本線や両毛線の建設、銀山平や北海道の開拓など、高橋九郎の活動の概要を1ページ目に簡単に紹介した（図表4-2-1）。

4. 2. 3 業績紹介

高橋九郎の活躍は幅広い分野にわたっていることから理解しやすくするために、政治家としての業績、地主としての業績、企業家としての業績の3分野に整理して、1ページ目から2ページ目にわたって紹介した（図表4-2-1、図表4-2-2）。

政治家としての業績では、明治11年の第16大区小6区戸長から明治31年の第6回衆議院銀選挙当選までの主な活動を年代に沿って紹介した。

地主としての業績では、耕地整理と暗渠は椅子の施工、共同苗代と果樹園、畳表や花筵などによる副業の推奨について紹介した。

企業家としての業績では、神谷信用組合の設立、北越銀行の前身である神谷銀行の設立、鉄道事業への参画、その他日本石油（現JXエネルギー）や長岡病院（現長岡赤十字病院）設立への関与などについて紹介した。

図表 4-2-1 高橋九郎マップ (1 ページ)



高橋九郎マップ!

(高橋家遠景 -昭和16年5月-)

高橋九郎とは？

1850年、長岡市神谷の割元*である高橋家の9代目当主の長男として生まれる。地域振興に生涯を捧げた政治家・企業家・篤農家である。また地主として小作人を大事にしている「家族的親愛=（協調性を持って接する）」ことを大前提とし、親分・子分の関係を築きました。

*割元…地方行政にあたった村役人の最上位の者。

高橋九郎の活動の概要

高橋九郎が神谷のみならず地域の為にした主な活動には、災害復旧、耕地開発と改良等の産業基盤向上を目的とした事業等があります。また新潟県内で2番目となる神谷信用組合の開設・経営に当たりました。神谷信用組合は「全国の模範組合」と称されるほどに成長し、その意思は現在の「JAさんどう」へ受け継がれています。更に、共同苗代の導入、果樹園芸等の副業奨励、私設气象台や時を知らせる鐘（時鐘）の設置、県下チューリップ移植の活動を地域のために進めました。

その一方、信越本線や両毛鉄道の開設、銀山平や北海道の開拓、長岡赤十字病院の開設、北越銀行の前身である「神谷銀行」の設置等、事業家としても多くの成績を残しました。その傍ら、政治家としても活躍し、帝国議会の衆議院議員を務めました。

このように数多くの功績を神谷や地域に残し、今でも「地主様」として多くの人に慕われています。

其の毫～公人としての高橋九郎～

明治初期の帝国議会の衆議院議員にも選ばれ、当時の産業組合の創設者となり、新潟県内の産業組合組織の発展に力を尽くした。

明治11年 年若い父に代わり第16代区小六区戸長に就任。この時九郎は28歳。

明治13年 父の死により家督を継ぐが、家業の医業と行政の仕事で多忙を極めた。

明治14年 31歳で宮川・道半村の区長に選ばれる。信濃・渋海合流地域の治水事業をおこなった。

明治17年 34歳で宮川新田始め10か村連合の区長に推薦される。

明治27年3月 第3回衆議院議員総選挙において、自由党（後の政友会）推薦で立候補し当選、国会議員となった。この時44歳。

明治31年8月 第六回総選挙に再度立候補して再び当選する。同三十五年まで国政に参与し、国政の場においても活躍した。



- 1 -

学校法人 中越学園
長岡大学

製作：高橋治道セミナー3・4年生
(地域活性化プログラム)
平成27年

其の貳 ～地主としての高橋九郎～

農業技術者でもあった高橋九郎は、旧態依然たる藩政的な農業政策でなく、農民みんなが幸せになる近代的農業の確立を考へる根幹としていた。そこで、私財を惜しみなく農業技術の向上と地域住民の暮らしを豊かにする為に使ひ、率先して地域振興に努めました。

☆耕地整理と暗渠排水の施工

得意な教理の測量技術を生かして、農業用水路の整備・小河川の改修などの水利事業を積極的に行った。

昔から神谷地区の田んぼの区画は乱雑で、用排水や農道の不備による稲作上の支障が多かった。また浜海川の氾濫が甚しい状態であった。明治 39 年当時、本県では珍しかった耕地整理を約百町歩に亘って行った。また、私財を投じて暗渠排水を設置したが、県下にその技術者がおらず、熊本県より技師を招いて施工した。

この事業は、農業の労苦の一つを軽減するだけでなく、地域の農業収量を増大させた。

☆共同苗代と果樹園、豊表や花籾などによる副業の推奨

明治 41 年には県内最初の共同苗代を設け、入選種、薄播を奨めて健苗の育成を図った。また、誘蛾灯の設置、馬耕や正条植を奨励するなどの農事の改良を行った。

競わせることで農業全体の質を高めるために、永年に亘り優良納米の小作者を表彰して産米の品質向上に努めた。

単作地帯における農家の収入が少ないことや天候や災害で収入が得られないことも多くあったことから副業に着目し、屋敷内の雑木を伐採して果樹の栽植を始めたり、明治 36 年には自費で製籾工場を建て、岡山県から技術者を招いて豊表や花籾の製籾法を人々に教えた。

其の参 ～企業人としての高橋九郎～

高橋九郎は農業経営のみならず、地元商工業の発展のためにも尽力を惜しまなかった。

☆神谷信用組合の設立

明治 29 年に始まった私設線北越鉄道の工事は、農民に多大なる賃銀の収入をもたらしたが、当時貯蓄思想に乏しく、奢侈の弊風と徳義の頹廃をもたらした。また明治 29・30 両年の大洪水は、生活の途を失わせるものであった。奢侈の弊風を矯正し、信用道徳の尊重を広めるために、明治 37 年に有限責任神谷信用組合を設立し、初代組合長となった。神谷信用組合の活動は国内のみならず、海外からも注目され、明治 44 年 10 月には英国のウェット夫婦の訪問を受けた。

☆神谷銀行の設立

地元商工業発展のための金融機関として、神谷銀行を大正 5 年に設立した。のちに国立第六九銀行と合併し、現在の北越銀行へと引き継がれている。また、第六九銀行、与板銀行、関原銀行、新潟県農工銀行等の銀行経営に関与し、地元発展に寄与した。

☆鉄道事業への参加

北越鉄道(現 JR 信越本線)の現ルートを推進し、鉄道開設に尽力した。両毛鉄道の第 2 位の大株主として、毛越鉄道の計画に関係した。

☆その他

日本石油会社(現 JX 日鉱日石エネルギー)の設立や長岡病院(現長岡赤十字病院)の設立に関与した。また、北海道の開拓や銀山平の開拓に関わった。

4. 2. 4 ゆかりの場所

神谷を訪れた人が簡単にゆかりの場所を訪問できるように、神谷の地図の中に高橋九郎が関係する場所 1 6 ヶ所を番号を振って紹介した(図表 4-2-3)。

- ①高橋家邸宅所在地 ②船着場 ③時の鐘 ④果樹園 ⑤プラタナスの大樹
 ⑥气象旗揚場所 ⑦献穀田 ⑧高橋家報恩記念碑 ⑨神谷神明社 ⑩共同作業所
 ⑪旧来迎寺村役場 ⑫火の見櫓 ⑬旧神谷信用組合 ⑭旧神谷小学校
 ⑮旧神谷信用組合事務所 ⑯新潟県チューリップ初開花場所

図表 4-2-3 高橋九郎マップ (3 ページ)

高橋九郎ゆかりの場所

長岡市神谷地区

至越路中沢 ↑
国道351号線

須川

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯

← 至 来迎寺
越路小学校

県道112号線

国道351号線

至 浦 →

① 高橋家邸宅所在地	② 船着場	③ 時の鐘	④ 果樹園	⑤ プラタナスの大樹
⑥ 气象旗揚場所	⑦ 献穀田	⑧ 高橋家報恩記念碑	⑨ 神谷神明社	⑩ 共同作業所
⑪ 旧来迎寺村役場	⑫ 火の見櫓	⑬ 旧神谷信用組合	⑭ 旧神谷小学校	⑮ 旧神谷信用組合事務所
⑯ 新潟県チューリップ初開花場所				

【神谷までの交通手段】

電車：信越本線 来迎寺駅下車徒歩 20分

バス：長岡大手口1番線乗り場 小千谷車庫行 浦バス停下車 20分
 長岡大手口3番線乗り場 越路小学校前行 神谷バス停下車

もみじ園
(長岡市来迎寺)

慈光堂
(長岡市浦 慈光寺前)

辯談堂
(小千谷市片貝 浄照寺境内)

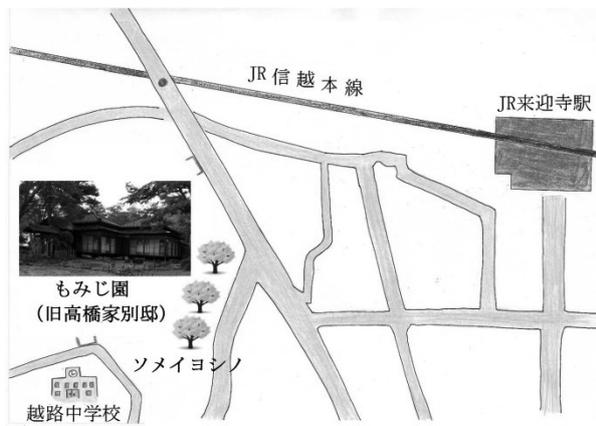
後山
(南魚沼市市野江乙)

- 3 -

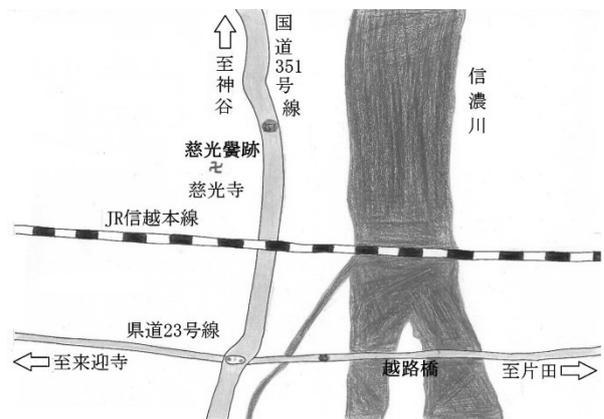
さらに高橋九郎が関係した場所は神谷地区だけにはとどまらないことから、幼いころ養子として過ごした場所、塾生として漢学などを学んだ場所、新潟県内で初めてソメイヨシノを植樹した場所4ヶ所も関連史跡として紹介した（図表4-2-3）。

- ① JR来迎寺駅から行くことのできる「もみじ園」の地図。旧高橋家別宅である（図表4-2-4）。
- ② 長岡市浦の善光寺にある「慈光龕」の地図（図表4-2-5）。
- ③ 小千谷市片貝の浄照寺境内にある「耕読堂」の地図（図表4-2-6）。
- ④ JR浦佐駅から行くことのできる南魚沼市野絵乙にある「後山」の地図（図表4-2-7）。

図表 4-2-4 もみじ園



図表 4-2-5 慈光龕



図表 4-2-6 耕読堂



図表 4-2-7 後山



4. 2. 5 その他

歴史的にも貴重な史実であるにもかかわらず、地域で忘れ去られつつある5つの事柄についても紹介した（図表4-2-8）。

- ① 時の鐘 午前0時と午前11時に時を知らせる鐘を鳴らした。
- ② 気象旗 農事にとって大切な天気予報を気象旗を使って毎日知らせた。
- ③ 神谷とチューリップ 新潟県初のチューリップが明治39年に神谷で開花した。
- ④ ソメイヨシノ 新潟県でソメイヨシノが育たないものかともみじ園に移植した。

⑤ 果樹園 副業奨励の一環として、自宅横の果樹園に桃、柿、苺、梅などを試栽した。

図表 4-2-4 高橋九郎マップ (4 ページ)

～神谷信用組合～

1896年(明治29年)から始まった北越鉄道(現JR信越本線)の工事は酒家の農民に土木工事の労働需要をもたらした。その資金収入が農家を潤しました。しかし、番付の弊害をもたらしたことから、高橋九郎は、番付放棄の風習を正し、信用造換を尊重するため、そして協同一致の考えの普及及び地産の発展の良策を策定するために、県下2番目の信用組合となる有限責任神谷信用組合を1904年(明治37年)に設立しました。この組合は年々発展の道をたどり、内容が充実し、成績が優秀であったことから政府の全国表彰を受け、信用組合として全国有数の歴史を誇りました。神谷信用組合は、現在の北越線さんとうのルートとなりました。1911年(明治44年)シドニーとビクトリアスのウェブ夫妻は、世界調査旅行の途中、社会政策調査のため来日し、神谷信用組合の調査も行いました。高橋九郎は、当時の高橋家の巴ヶ丘別荘(現もみじ園)で夫妻を接待し、宿泊でもてなしました。このことから神谷信用組合は、世界的に注目されていたことがわかります。

～時の鐘～

昔は一般の農家には時計がなく、時刻が知られることができないため農事に不便でした。高橋九郎は1883年(明治15年)、自宅の屋上に時刻塔を設け毎日午前11時と午前0時の2回、鐘を打ち鳴らして時を知らせました。その音は遠くの地村にまでも聞こえ、午前11時の時報を聞くことと田畑に働く人々は昼食のため途次茶路につくの常としたものです。

～気象旗～

農業を行うのに雨・曇・霧・風力を知る必要を感じていた高橋九郎は、1906年(明治39年)から毎日(夜半を除く)新潟県庁から電報で気象予報を知らせてもらい、宅前の果樹園内に設けた高さ20mの気象塔に気象旗や警報旗を掲げ、翌日の天気を知らせて農家の便宜を図りました。これは太平洋戦争中まで約40年間継続しました。

～神谷とチューリップ～

1904年(明治37年)、遊半村(現長岡市神谷)に住む水島義郎は、高橋九郎が新潟県議員当時の調布から入手したチューリップの球根を分けてもらい、自宅の庭に植えました。太陽光で温めた井戸水を与えるなど、手塩にかけて育てた甲斐あって、きれいなチューリップが咲きました。これが、新潟県初のチューリップです。当時小千谷市小栗田にあった陸軍の飛行場に勤務する軍人が高橋にまたがって見に来たということです。

～ソメイヨシノ～

江戸末期に作られたソメイヨシノが新潟県で育たないものかと東京から苗木を運が、巴ヶ丘にある高橋家の別荘(現もみじ園)に植え、育成に成功しました。この話が伝わり、長岡市の悠久山に大量のソメイヨシノが移植されることとなりました。

～果樹園～

自宅横に果樹園をつくり、桃、柿、梅、苺などを試栽して、育つかどうかの試験を行いました。成果の見込まれるものについては、希望者に苗木を分け与え、普及を図った。ここには、プラタナスの苗木も植えられ、大樹となって育っています。

～高橋九郎の年表～

1870年(明治3年)12月17日 長岡藩御用神谷町外新田村(現長岡市神谷)の庄屋高橋九郎右衛門の長男として誕生。幼名聚太郎、その後右八郎。

1872年(明治5年) 南魚沼郡神村大字後山(現在の南魚沼市野江之)で1千年以上の伝説を誇り、母・祖母の宗家の親戚にあたる任那奈へ後継養子に入る。

1874年(明治元年) 高橋奈に男子が誕生せず、生家に戻る。隣村片貝の「講堂一丸山(現小千谷市片貝町浄原寺境内)に入門。石黒忠憲(後の軍医総監、日本赤十字社長、相模藩司、正二位子爵)と交際始まる。

1876年(明治3年) 蘭私塾「啓光塾」にて本村判官(本名を誠一郎、旧長岡藩支那館館長)に就いて漢字を修める(1873年まで)。

1873年(明治8年)8月14日 公立の外新田校(小学校)が吉川外新田に開校。明治42年には基本金を設立し、料子をもって学校の経費に充当し、学区民からは教育費を徴収せず。

1878年(明治11年) 第十六大区小千谷戸長に就任。

1880年(明治13年) 父高橋九郎右衛門の死去により家督を継承。父名の九郎を継ぐ。

1881年(明治14年)12月 吉川外新田・遊半両村の戸長に選出(公選)。

1882年(明治15年) 時の鐘を自宅土蔵の上に設置し、毎日午前11時と夜12時に時を知らせた。神谷では、現在も午前11時になると犬の見物のサイレンが時を知らせる。

1884年(明治17年)8月 吉川外新田等の10か村連合の戸長となる。

1888年(明治21年) 村会議員に就任(晩年に至るまで)。

1891年(明治24年) 村内救民に活動果を結集。

1894年(明治27年)3月 帝國議会の衆議院議員、第六回帝國議会に出席。

1896年(明治29年) 神谷信用組合を設立。

1898年(明治29年) 巴ヶ丘別荘(現もみじ園)を建築。

1898年(明治31年)8月 帝國議会の衆議院議員に再任。一三回、十四回、十五回、十六回の帝國議会に出席。

1903年(明治36年) 蕎麦苗を岡山より移入し、播種を奨励。量産工場を作り普及に力を注ぐ。

1904年(明治37年) チューリップ球根を入手し、譲り受けた水島義郎氏(遊半村在住)が県内で初めて開花に成功。

1906年(明治39年) 私設気象台を開設し、気象観測による天気予報の告知開始。以後40年間、ラジオが普及までの40年間続けた。

1906年(明治39年) 本迎寺村農会長及び新農会正副会長に選出に就任。

1907年(明治40年) 土地改良の目的で灌漑排水を施設。

1908年(明治41年) 吉川外新田・遊半地区の土地改良を推進。

1908年(明治41年) 共同畜産一町歩を設置。

1908年(明治41年)2月 本迎寺村村長に就任(明治45年3月まで)。

1904年(明治37年) 神谷信用組合を設立。初代組合長となる。

1911年(明治44年)9月9日 ウェブ夫妻による神谷信用組合などの調査。巴ヶ丘別荘(現もみじ園)に泊る。

1911年(明治44年) 小作果品評会開催。100年以上の小作農業者表彰。

1914年(大正3年)8月 信濃川大洪水。神谷信用組合は水害救済のために式馬門の開出を行う。

1918年(大正5年)10月25日 神谷銀行を設立(1934年4月第六九銀行と合併)。

1918年(大正5年) 勸定福院家墓を築る。

1922年(大正11年)9月21日 承継 享年七十三歳。

其の他の功績

- ☆銀行経営に開与：第六九銀行、与板銀行、開原銀行、新潟県農工銀行の経営に開与。
- ☆鉄道事業への開与：北越鉄道(現JR信越本線)の現ルートを推進。両毛鉄道の第2位の大株主。毛越鉄道の計画に開与。
- ☆日本石油会社(現JR日能日石エネルギー)の設立：殖産院会に参画。設立発起人に名を連ねる。
- ☆新潟山産物株式会社設立：取締役。北魚沼郡豊谷村下枝折宇赤川の大規模開発を計画。
- ☆長岡病院(現長岡赤十字病院)の設立：病院設立に際し、石黒忠憲に相談。建設時の医師の大方を石黒氏が特約。
- ☆ソメイヨシノ株：巴ヶ丘に移植し、新潟県で育つことが確認できた後、悠久山に植えられた。
- ☆古い伝説：神谷中央公園(旧果樹園)内のプラタナスの大樹は、九郎さんが移植したと伝えられている。高橋奈と神谷小学校との境界の石垣にもかなりの数のプラタナスの大木が植わっていた。



巴ヶ丘のソメイヨシノ
(昭和16年)



チューリップの里 神谷 果樹園のプラタナス



- 4 -

5. 生誕165周年記念事業

5. 1 記念事業の概要

昨年度の活動で作成した「高橋九郎マップ」を作る活動の中で、今年が高橋九郎が生まれて165年目の節目の年であることが分かった。

そこで今年の活動は、神谷在住の大地主であった高橋九郎が地域発展に残した功績を広く知らせ、後世に伝えるために、生誕165年を記念する催し物をもみじ園で開催することを地域活性化プログラムの取り組み課題として計画した。

7月19日に越路もみじの会会長である廣川篤氏を訪問（図表5-1-1）し、これまで収集した資料展示と記念講演会をもみじが紅葉する時期にもみじ園で記念行事として開催できないかと考えていることを話した。この際、協力要請文と記念行開催企画書（案）を持参して説明した（図表5-1-2、図表5-1-3）。

廣川氏の話では、近年紅葉の頃にもみじ園を訪れる観光客は増え、昨年度は約6万人の人が訪れたとのことであった。しかし、もみじ園を作った高橋九郎のことを知る人は殆どおらず、また高橋九郎を紹介する催しなどもこれまで行ってこなかったとのことであった。

廣川氏からは、記念行事開催について越路もみじの会として全面的に協力するということを快諾いただいた。さらに、開催時期と場所について越路観光協会様とその場で連絡を取ってくださり、記念講演会(後の記念シンポジウム)を11月6日（日曜日）午後からもみじ園の「もみじの間」で開催することとなった。

資料展示会については、10月末から11月末にかけてもみじ園の建物が一般公開されるのに合わせて開催することを考え、ゼミ中での話し合いでは11月5日（土）、6（日）、12（土）、13日（日）の計4回行いたいと考えていることを話し、この日時で開催することです承を得た。

その後、長岡大学地域連携研究センターからもCOC+の活動の一環として協力していただけることになった。

図表5-1-1 もみじの会会長廣川篤への協力要請訪問



図表 5-1-2 越路もみじの会への要請文

越路もみじの会
会長 広川篤 様

長岡大学
高橋ゼミナールⅢ・Ⅳ

高橋九郎生誕 165 周年記念展示・講演会への「主催者」参加のお願い

拝啓 御会におかれましては、益々ご隆盛のこととお慶び申し上げます。

日ごろは長岡大学および当ゼミナールの活動にご理解とご協力くださり、誠にありがとうございます。

さて、当高橋ゼミナールは、平成 18 年から本学の特徴ある教育プログラムの一つである「学生による地域活性化プログラム」に参加し、「地域の資産を生かした地域活性化」をテーマとした活動を神谷地域において行っております。これまでに、地域コミュニティ活性化要因の抽出、「神谷情報マップ」の作成、「新潟県初のチューリップ開花地を知らせる看板」設置、旧神谷信用組合の建物と休耕地活用に関する提案、神谷の自然を子供たちに伝えるためのEポートによる須川下り、「もみじ園をひらいた高橋九郎マップ」の作成などの活動を行ってきました。

この活動を通して、神谷地区の人達からは、神谷の素晴らしさを再認識できた、神谷のこの素晴らしさを次世代に伝え残して行きたい、自分たちが住む地区の歴史・文化・遺産に誇りを持って、などの声が寄せられました。また、神谷地区が主催する催し物にも積極的に参加し、神谷の人たちとの交流を深めて来ました。

私たちはこの活動を行う中で、現在の神谷の姿を作ったキーパーソンは、地主、議員、企業家として活躍した高橋九郎であることに気づきました。また、昨年度「高橋九郎マップ」を作成する中で、本年が生誕 165 周年にあたることを知りました。そこで私たちは、地域の発展にその人生のすべてを捧げた高橋九郎の人物象と業績を伝える 165 周年記念事業を本年度のゼミ活動として取り組むことにいたしました。

つきましては、日ごろ高橋九郎がひらいたもみじ園の維持・発展のために活動されておられる御会からも本記念事業に主催としてご参加いただきたく、お願い申し上げます。

記念事業の詳細については、別紙“『高橋九郎生誕 165 周年記念展示・講演会』開催企画書（案）”に記した通りです。

本事業開催の趣旨をご理解の上ご検討くださいますよう、よろしく申し上げます。

敬具

図表 5-1-3 高橋九郎生誕 165 周年記念行事開催企画書 (案)

『高橋九郎生誕 165 周年記念展示・講演会』開催企画書 (案)

高橋ゼミナールⅢ・Ⅳ

趣旨

近年多くの観光客が訪れるもみじ園をひらいた高橋九郎が 1850 年 (嘉永 3 年) 12 月 27 日に長岡藩西組宮川 (現長岡市神谷) の庄屋高橋九郎右衛門の長子として誕生して 165 年周年を迎えました。

氏は、農業技術の改良や耕地整理、神谷信用組合や神谷銀行の設立、衆議院議員など地主、企業家、政治家として多彩な活動を行い、旧来迎寺村をはじめとする地域の発展にその生涯のすべてを捧げました。しかし、現在では、その功績や人となり語られることはほとんどなく、歴史の片隅で忘れ去られようとしております。

氏の生誕 165 年を迎え、地域振興にその生涯を捧げた氏の生き方は、地方の時代と言われる現代に生きる私たちにも通ずる何かを語りかけてくれるのではないかと考え、氏の業績と人生を振り返り、その先駆的でダイナミックな活躍を学ぶ会を開催することとしました。

名 称 高橋九郎生誕 165 周年記念 展示・講演会
～地域の発展に生涯を捧げた軌跡～

日 時

講演会 2016 年 11 月 6 日 (日)

展示会 2016 年 11 月 5 日 (土)、6 日 (日)、12 日 (土)、13 日 (日)

*ボランティアガイドによる来園者への案内は、10 月 29, 30 日、11 月 5, 6, 12, 13 日に行われる。

場 所

もみじ園

内 容

講演会 地域の発展に生涯を捧げた高橋九郎の軌跡 講師 長岡大学教授 松本和

明

展示会 神谷地区と歴史文化の会が収集・所有する高橋九郎ゆかりの資料の展示

- ・地主・農業技術者としての資料
- ・企業家としての活躍を物語る資料
- ・政治家としての活躍を紹介する資料

準備活動

7月中旬	主催、後援要請活動
下旬	長岡市広報誌への掲載依頼
8月下旬	案内・ポスター作成と配布
9月	展示資料の準備・作成
10月	展示資料の準備・作成、説明練習
11月4日	展示資料設置
11月5日	資料展示・説明、講演会準備
11月6日	講演会準備・開催
11月12日	資料展示・説明
11月13日	資料展示・説明、展示物撤収

5. 2 資料展示

5. 2. 1 展示資料の作成

展示会で展示する資料は、神谷の「歴史・文化の会」がこれまでに収集した写真や古文書と市内の収集者が寄贈されたり貸して下さったりした資料を使うことにした。しかし、どの資料も貴重なものであるため現物を展示することは避け、イメージスキャナーで読み込んで印刷したコピーを展示することにした。

展示した資料の数は、展示場所の広さの関係もあり全部で45点とした。資料の数はそれほど多くはないが、これまで一度も公表されてこなかった資料も多数含ませ、興味を持って観ていただけるように工夫した。

これらの展示資料についてアドバイザーの方々からのご意見をいただくために、10月11日に中間レビューを開催した。展示資料に対するご意見は特になかったが、発表のしかたについて、原稿に目を落としながら説明するのではなく、写真を見ながら説明したほうが良いとのご意見をいただいた。

中間レビューで展示資料に対する修正意見が特になかったことから、準備しておいた展示資料をA2サイズで印刷して額に入れ、イーゼルに立てて展示する準備を行った。また展示資料に簡単な説明文を付けることにして、その用意を行った。

資料の展示では、訪問者に活動の内容が伝わりやすいように、高橋家に関するもの、九郎翁に関するもの、模範村建設に関するもの、企業活動に関するもの、議員活動に関するもの、その他にグループ分けして配置し、一巡することで高橋九郎の業績の全体像が把握できるように工夫した。

展示会当日は、訪れた人に展示資料の題名を紹介する「展示資料の一覧」を印刷して配布した(図表5-1-4)。

この一覧の裏には、高橋九郎の考えを少しでも知っていただけたらと考え、高橋九郎が大正4年5月の神谷信用組合十周年大会に際し組合長として行った訓示「恒心より恒産を生ず」を印刷した(図表5-1-5)。

図表 5-1-4 展示会で配布した展示資料一覧

国登録有形文化財登録及び高橋九郎翁生誕165周年記念展示資料一覧			
種別	写真	資料	名称
	1	高橋九郎翁写真展	
高橋家	2	高橋家の歴史	
	3	高橋家系図	
	4	高橋家旧家屋	
	5	高橋邸図面	
九郎翁	6	高橋九郎翁銅像	
	7	高橋九郎翁年表	
	8	産業組合中央会新幡支会発行「高橋九郎翁」	
模範村建設	9	耕地整理と河川改修	
	10	気象旗	
	11	作業場外観	
	12	作業場での作業風景	
	13	製筵工場	
	14	火の見櫓	
	15	果樹園の設計図	
	16	温室設計概要	
	17	創立当時の神谷信用組合事務所	
	18	神谷信用組合旗	
	19	神谷信用組合設立7周年記念祝賀の辞	
	20	神谷信用組合専売の葉	
	21	神谷信用組合20周年記念誌	
	22	ウェッブ夫婦による神谷信用組合調査	
	23	「大英国産業組合活動」に関するメモ	
企業活動	24	神谷銀行開業広告	
	25	「浦」に駅を設置要求する理由書	
	26	銀山日記	
	27	銀山記	
議員等活動	28	第16大区副区長任命書	
	29	道半村・宮川外新田戸長任命書	
	30	衆議院議員の証	
	31	国会活動	
	32	第6回衆議院請願委員会	
その他	33	創設当時のもみじ園	
	34	花下宴会	
	35	今は無き観音像	
	36	六十九銀行員運動会	
	37	30連隊長が食後に茶飲む図	
	38	東京の別邸	
	39	柳田国男氏講話への同行図	
	40	井上円了氏	
	41	石黒忠憲氏	
	42	新潟県最初のチューリップ開花者 水島義郎氏	
	43	プラタナスの木	
	44	高橋家報恩記念碑	
	45	神谷に遺る史跡	

(長岡大学 高橋治道ゼミナール)

図表 5-1-5 恒心より恒産を生ず

大正四年五月神谷信用組合十周年大会に際し組合長として行つた訓示
恒心より恒産を生ず

古人言う、恒産なきものは恒心なし、衣食足りて礼節を知る云々とあるは古今の金言にして、吾人の常に敬服するところであるが予は言にここに経験の一斑を裏面から述べてみよう。さて世の中は万般のものに就いて総じて表裏がなくはならぬものである。一例を揚げれば家屋の内、戸障子、畳の表裏又は衣服に至りては、縞の表に無地染色の裏を付けて一枚の着物になるが如きもので、表あれば必ず裏がある。今ここに恒の産と云うものを小農工商者の恒の産なき者をして、百姓流に是が裏手から、遠慮なくいわしむるときは、資本家に恒心乏しくして、無産者の方かえつて恒心多しと思う。我々小農工商の無産者を相手として産業組合を経営従事する者の実驗上よりみるときは恒産よりも恒心なる者を、第一位に置かなければならぬと思う。要するに恒心なるものは常の心にして何も別段の心にあらず、非常に好き心にもあらず又非常に悪しき心にもあらず、ただ平々凡々約言すれば、常識を備えただけの平常の心なれば、何人も生まれながらにして持つて居るところの素心であると思う。故に無産の者に対し、勤儉貯蓄の美風を奨導して、常の心を発起せしむるときは、恒徳を重んずる道に向かうと共に、自然と恒産も出来る、これに引きかえ大資本家も、恒心に乏しければ、たちまちにして数万の財産を蕩尽する者実例甚だ多し、故に恒産が恒心を支配するものではなく、恒心即ち常の心が活動して人格を造り又常の産を作るのである。古人が精神一到何事かならざらんと云うも常の心が変わらぬ、撓まず進み行けば人の望みは足るものと云う、範を示したものである、人間に常の産が無ければ、常の心が無きものと云うならば府県郡の官吏中にも恒産を有せざる人士なしとも限られず、もしあるとすれば、いやしくも人民の上に立ちて政事を行う官吏にして、恒の心なしとすれば、はなはだ危険千万と云わねばならぬ次第である。しかるに事實は是に反し恒産なき官吏も、百姓も商人も、下男女といえども生れ得て、備わりおる所の素心、即ち常の心が変わらざる限りは自然に道徳も向上し、善政も行われ、又興産もできる。これ我が信用組合員の恒産なきものが恒心の発達と共に資産を造りたる実例にして、学説の反対なれども、これが物には表裏のある現象にして我が組合員が裏面より常の心を発達せしめて、今日表面に恒産を作る途に向けて進みつつある結果を共に祝賀に堪えざる次第なり、組合員諸氏ますます進で恒心を磨かれんことを。

大正四年五月十六日

神谷信用組合長

高橋 九郎

5. 2. 2 学園祭での展示

もみじ園で開催する「高橋九郎生誕 165 周年記念シンポジウム」での展示資料の説明の練習を兼ねて 10 月 28、29 日に開催された悠久祭において作成したパネルを展示し、説明を行った。午前と午後一回ずつの説明を数名の方が聞いてくださいました。

これまでのゼミ活動では、高橋九郎のことを説明する機会は成果発表会のみだったので、シンポジウムに向けてとても良い経験になった。

説明を聞いてくださった方に感想などをお聞きしましたが、よく調べてまとめられている、名前は聞いたことあるがここまで活動しているのは初めて知ったなどの声をいただきました。また、説明をする中で早口になっていたという改善点も見つかりました。

図表 5-2-1 悠久祭での展示の様子 1



図表 5-2-2 悠久祭での展示の様子 2



図表 5-2-3 悠久祭での展示の様子 3



5. 2. 3 もみじ園での展示

もみじ園の一般開放に併せ、11月5日、6日、12日、13日の土日に実施した。展示した写真は全部で45枚である。朝日山山荘（もみじ園）内の全ての部屋を使い、分野ごとに展示した。また、希望する見学者の方には写真の説明を行い、高橋九郎の業績をより知ってもらうように活動した。

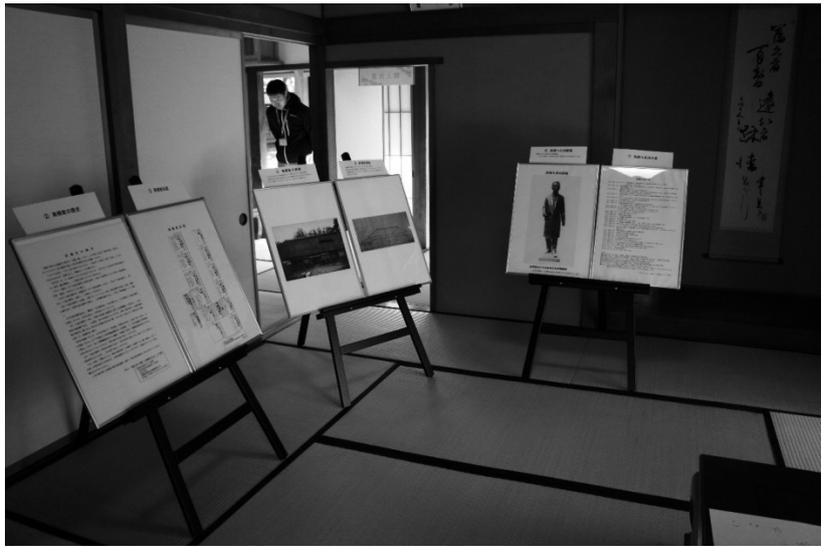
図表 5-2-4 もみじ園での展示の様子（入口）



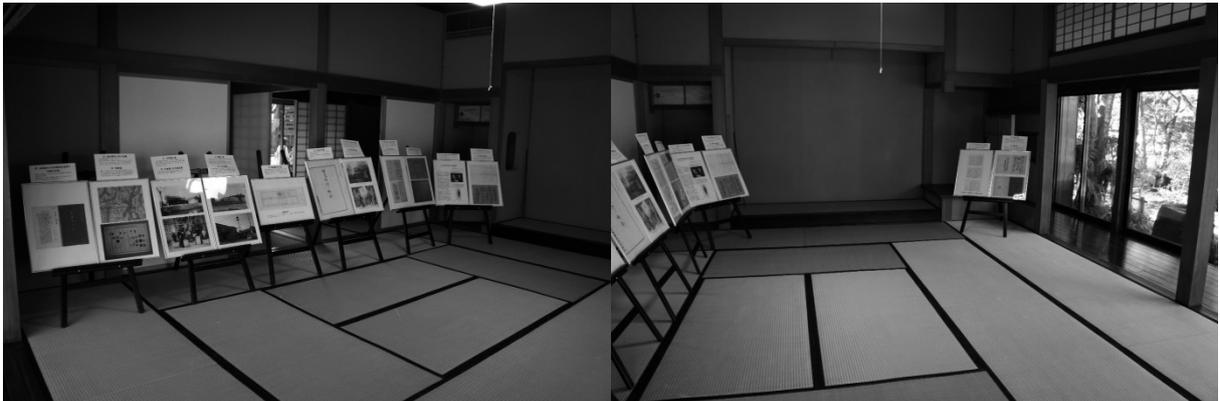
図表 5-2-5 もみじ園での展示の様子（玄関）



図表 5-2-6 もみじ園での展示の様子（さくらの間）



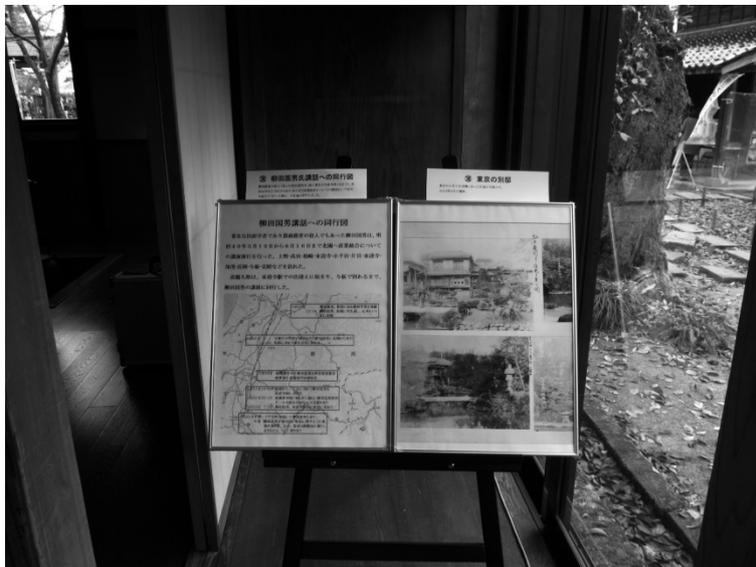
図表 5-2-7 もみじ園での展示の様子（もみじの間）



図表 5-2-8 もみじ園での展示の様子（さつきの間）



図表 5-2-9 もみじ園での展示の様子（廊下）



図表 5-2-10 もみじ園での展示の様子（いろりの間）



展示した資料の中の一部をここに紹介する。

図表 5-2-11 高橋九郎



図表 5-2-12 設立当時の神谷信用組合事務所



創立当時の事務所

図表 5-2-13 神谷信用組合旗



組合旗と木綿の組合員制服(羽織り)を着用された組合長。(大正2年1月撮影)

図表 5-2-14 神谷信用組合設立7周年記念祝賀の辞

神谷信用組合設立七週年 紀念祝賀の辭

諸君御五が前年調劑したる本組合專賣の共同丸を七ヶ年の間患はず服膺したる其効能によりて追々發育して今日には健全に休養は六割五分余を増し尙ほ將來ますます發育の望み多き身となりまして誠に喜ばしき余り茲に年々休養の増加したる内譯を數字に現して諸君に分ち且つ御五が自身の健康をよるこふのみならず此實驗の効能を他の人々にも勧誘して共同丸を服膺せしめ普く世人をして健康体となり御國の爲め盡れんことを祈る

明治三十七年	初年度積立金 四拾圓 五拾七錢 參厘	組合員 四百八十五人 一口配當 四百二十三口
明治三十八年	一年度積立金 四百〇七圓 拾九錢 參厘	組合員 五百二十三人 一口配當 五百二十三口
明治三十九年	二年度積立金 六百〇貳圓 五拾九錢 八厘	組合員 五百七十五人 一口配當 六百八十八口
明治四十年	三年度積立金 五百九拾四圓 〇九錢 貳厘	組合員 六百九十三人 一口配當 六百九十三口
明治四十一年	四年度積立金 壹千壹百六拾五圓 六拾五錢 貳厘	組合員 七百六十六人 一口配當 七百六十六口
明治四十二年	五年度積立金 壹千四百六拾圓 六拾五錢 五厘	組合員 八百六十六人 一口配當 八百六十六口
明治四十三年	六年度積立金 壹千五百七拾貳圓 七拾壹錢 參厘	組合員 九百四十六人 一口配當 九百四十六口
明治四十四年	七年度積立金 壹千八百四拾參圓 四拾七錢 四厘	組合員 一千四百六十八人 一口配當 一千四百六十八口

但し壹口の積立金高六圓五拾貳錢壹厘余

品川子爵の批語に

國に畑に
打出の鋏の
小槌かな



有限 神谷信用組合

明治四十四年一月二十六日

図表 5-2-15 神谷信用組合專賣の藥

神谷信用組合專賣の藥

一 共同丸 一 劑定價金拾圓

本劑の原料は世にありふれたるものと異り異れ多くも我々天皇陛下より下し賜はりたる最良種と其他東西洋各國より選抜したる原料とを以て調劑せしめたるものは効驗神妙にして實に世界無比の神藥なり一度是を服膺すればいかなる難病も全治せざることをなし又た無病の人の服膺する時は推譲篤義の心を増しますます強健にして不老の身となること疑なし左に其の主治効能を記して服膺を勧誘するもの也

一本劑を服膺すれば 恒心を發達せしめ經濟を豊にし公德を重んずるの精心を養ふに結効あり

一本劑を服膺すれば 精心を健全ならしめ神谷信用組合の組合員となり勤儉貯蓄と共同心を増し篤義を重んじ愛鄰自治の念を發起す

一本劑を服膺すれば 總ての野心を消化して貧苦を去り共同團結の力を増します

一本劑を服膺すれば 世に云ふ四百四病より尙一層の難治たる貧苦病の根を切り健全なる獨立自營の文明國民となる

一本劑を服膺すれば 共同の心を健全ならしむるため一國も一郡も一村も一家も皆此効能に因りて醇厚なる民俗となり健康を保つ

●服膺者の心得

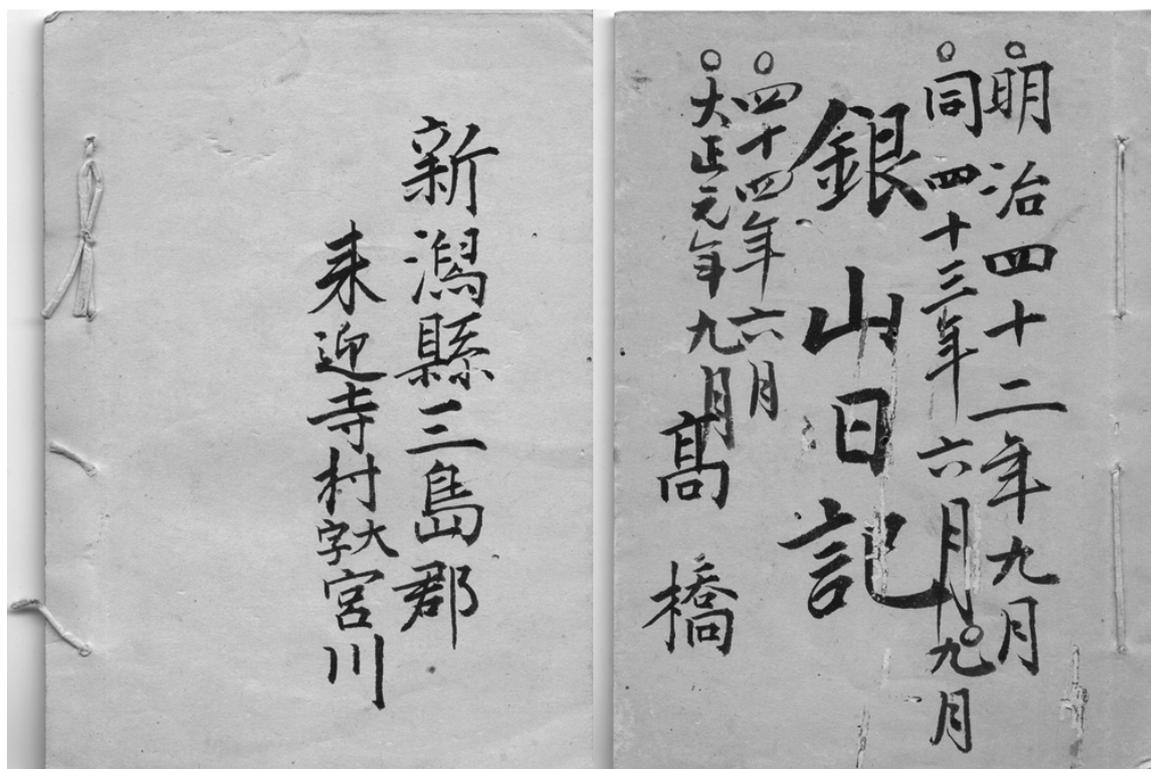
◎よくばり ◎いばり ◎たこり ◎いつはり

◎のこしま ◎のぼり ◎わるあそび

◎七ツの毒はゆめ／＼わするべからず若し過ちて食する時は財産も其身も亡ぶるのみならず災子孫に及ぶ慎むべし

製劑本舖 神谷信用組合

図表 5-2-16 銀山日記・銀山記



裏表紙

表紙

図表 5-2-17 銀山記



裏表紙

表紙

図表 5-2-18 第 16 区副長任命書

高橋右八郎
 第拾六區副長
 申付候事
 但此區受持月給金
 拾圓支給作事
 明治十一年四月十八日
 新潟縣廳

図表 5-2-19 道半村・宮川外新田戸長任命書

高橋九郎
 三島郡 道半村 宮川外新田
 戸長申付準等外
 四等候事
 明治十四年十二月九日
 新潟縣

図表 5-2-20 衆議院議員之證

衆議院議員之證
 新潟縣三島郡 浦村大字宮川外新田
 高橋九郎
 右者成規ノ資格ヲ有シ
 正當ノ手續ヲ經テ第五
 衆議院議員選舉區ニ
 於テ當選シタルコトヲ
 證明ス
 明治廿七年三月十三日
 新潟縣知事籠手田安定

図表 5-2-21 国会活動資料一覧

検索結果一覧

NO	議会	院名	種別	会議名	号(回)	開会日付
001	13	衆議院	索引	議事速記録索引	-	-----
002	15	衆議院		請願委員会	1	明治34年01月23日
003	15	衆議院		請願委員会	2	明治34年02月01日
004	15	衆議院		請願委員会	3	明治34年02月13日
005	15	衆議院		請願委員会	4	明治34年02月20日
006	15	衆議院		請願委員会	5	明治34年03月15日
007	15	衆議院		請願委員会	6	明治34年03月20日
008	15	衆議院		請願委員会	7	明治34年03月22日
009	15	衆議院		社寺上地林処分法案外、存置を要せざる国有林野の特売に関する法律案委員会	1	明治34年03月16日
010	15	衆議院		社寺上地林処分法案外、存置を要せざる国有林野の特売に関する法律案委員会	2	明治34年03月18日
011	15	衆議院		台湾事業公債法中改正法律案委員会、明治三十二年法律第一百号中改正法律案委員会	1	明治34年02月25日
012	16	衆議院		請願委員会	1	明治34年12月12日
013	16	衆議院		請願委員会	2	明治34年12月16日
014	16	衆議院		請願委員会	4	明治35年02月05日
015	16	衆議院		請願委員会	5	明治35年02月14日
016	16	衆議院		請願委員会	6	明治35年02月28日
017	16	衆議院		請願委員会	7	明治35年03月04日
018	16	衆議院		請願委員会	8	明治35年03月05日
019	16	衆議院		請願委員会	9	明治35年03月07日
020	16	衆議院		鉱業法案委員会	1	明治35年03月05日
021	16	衆議院		鉱業法案委員会	2	明治35年03月06日
022	16	衆議院		鉱業法案委員会	3	明治35年03月07日
023	16	衆議院		鉱業法案委員会	4	明治35年03月08日
024	16	衆議院		工業試験所に板硝子製造練習工場設置に関する建議案委員会	1	明治35年01月22日
025	16	衆議院		工業試験所に板硝子製造練習工場設置に関する建議案委員会	2	明治35年01月24日
026	16	衆議院		国有土地森林原野下戻法施行法案委員会	1	明治35年01月24日
027	16	衆議院		国有土地森林原野下戻法施行法案委員会	3	明治35年01月31日
028	16	衆議院		国有土地森林原野下戻法施行法案委員会	4	明治35年02月05日
029	16	衆議院		国有土地森林原野下戻法施行法案委員会	5	明治35年02月13日
030	16	衆議院		徴兵令中改正法律案委員会	1	明治35年02月14日

4日間を通して1,000名を超える方から見ていただき、説明を行った（図表5-2-11）。

図表5-2-11 展示資料の説明



見学者から寄せられたご感想と説明しての感想は、次の通りである。

見学者の感想

資料展示と説明を通して、次の様々な声が寄せられました。

- ・今までは建物の見物だけで終わっていたが、創設者の事を知ることが出来て良かった。
- ・高橋九郎さんの事を全く知らなかったので知ることが出来て良かった。
- ・今まで以上に高橋九郎さんの事が深く知る事が出来た。

等々

説明しての感想

- ・建物の中を見たいという方々が多く、その方々に積極的に説明をしていくことで高橋九郎を知らない人にもどんな人物か伝えることが出来た。
- ・今回の活動で高橋九郎生誕165周年を飾ることが出来た。
- ・今後もシンポジウムなどを開催することで、さらに高橋九郎という人物の知名度が上がると確信出来た。

5. 3 生誕165周年記念シンポジウム

既に述べたように、本年が高橋九郎が生まれて165年目の年であることから、地域振興に生涯をささげたその一生と業績を紹介する資料展示会と記念講演会からなる生誕165周年記念行事を開催することを計画した。

当初は松本和明先生による記念講演を考えていた。しかし、準備を進める中で長岡大学地域連携研究センターがCOC+の活動の一環をして取り上げてもらえることになり、パネルディスカッションを含んだ「高橋九郎翁生誕165周年記念シンポジウム～地域の発展に生涯をささげた軌跡～」として11月6日の午後2時半からもみじ園のもみじの間で開催することとなった。

記念行事の内容と共催・後援団体が決まった時点でポスターとチラシを地域連携研究センターから作成していただき、主だったところに配り、展示・配布していただいた。

図表 5-3-1 シンポジウムのチラシ

長岡大学 **地(知)の拠点**

平成28年度 長岡大学地(知)の拠点大学シンポジウム

高橋九郎翁生誕165周年 記念シンポジウム

～地域の発展に生涯を捧げた軌跡～

平成28年
とき **11月6日** 13:00～16:00

場所 登録有形文化財 **もみじ園** (岡崎市朝日600番地)

定員 **先着50名 入場無料**

近年多くの観光客が訪れる“もみじ園”をひらいた高橋九郎翁の生き方は、地方の時代と言われる現代に生きる私たちに何かを語りかけてくれるのではないのでしょうか。“もみじ園”は、国の登録有形文化財に指定されました。
なお、このシンポジウムは、長岡大学「地(知)の拠点大学地方創生推進事業(COC+)」として、地域の方々のご協力で開催するものです。

第1部/講演 13:00～14:00
「高橋九郎の足跡と活動」 講師：長岡大学教授 松本 和明

第2部/パネルディスカッション 14:30～16:00
「地方創生時代に九郎翁から学ぶことは！」

(リネリスト)	越路神谷区長	白井 藩 氏
	長岡市役所越路支所産業建設課課長	新保 浩一 氏
	越路もみじの会会長	廣川 篤 氏
	ながおが生活情報交流わっと理事長	藤原 眞二 氏
	長岡大学教授	松本 和明
	長岡大学学生	高橋ゼミナール学生
(コーディネーター)	長岡大学教授	高橋 治道

〈お申込〉
電話・FAXでお申込下さい。FAXでのお申込は、このチラシの下欄に記入し、下記のFAX番号に送信してください。
TEL: 0258-39-1600(代)
FAX: 0258-39-9566
長岡大学地域連携研究センター
担当：小田原、山田
〒940-0828 長岡市朝山町80-8
<http://www.nagaokauniv.ac.jp>

■主催/長岡大学地域連携研究センター (企画・運営/長岡大学高橋治道ゼミナール) ■共催/越路観光協会
■後援/長岡市、越路神谷区、歴史・文化の会、越路もみじの会、東北越路銀行、JA越後さんとう

5. 3. 1 共済・後援団体

作成した資料の展示、説明、高橋九郎翁誕生記念シンポジウムをもみじ園で行うにあたって、以下の企業に共催、後援団体として協力して頂いた。

- ・共催 越路観光協会
- ・後援 長岡市、越路神谷区、歴史・文化の会、越路もみじの会、(株)北越銀行、JA 越後さんとう

共催と後援のお願いは、手続き的に難しい問題があったため、地域連携研究センターに協力してもらって行った。

5. 3. 2 シンポジウム

高橋九郎翁生誕165周年記念シンポジウムは高橋家の別荘であったもみじ園のもみじの間で11月6日に開催した。参加者は定員いっぱいの50名であった。

シンポジウムでは、まず初めに本学の教授である松本和明教授から講演を行なっていただいた。「高橋九郎の足跡と活動」と銘打たれたこの講演では、高橋九郎がどんな人物だったのか、何をした人物だったのかなどがわかりやすく紹介された。この講演に対する反響は大きく、シンポジウムの後に記入してもらったアンケートにも「松本先生の話が素晴らしく、シンポジウムの内容がインターネットで見られるようにしてほしい。」といった意見や感想が寄せられた。

松本教授の講演の後に5人のパネリストによるパネルディスカッションを行った。

パネリストとコーディネータは以下の通りである。

パネリスト	越路神谷区長	白井湛様
	長岡市役所越路支所産業建設課課長	新保浩一様
	越路もみじの会会長	廣川篤様
	ながおか生活情報交流ネット理事長	桑原眞二様
	長岡大学教授	松本和明
	長岡大学高橋ゼミナール学生	今井練
コーディネータ	長岡大学教授	高橋治道

各パネリストから自己紹介を行っていただいた後、メインテーマである「地方創生時代に九郎翁から学ぶことは！」に沿って、以下の内容でシンポジウムを行った。

1) 自己紹介と所属する組織の紹介

全員

2) 高橋九郎翁に対する印象・感想

白井様 ご自身の印象・感想。地元神谷の皆さんの九郎翁に対する印象・認知度。

新保様 ご自身の印象・感想。越路地域の九郎翁に対する印象・認知度。

廣川様 ご自身の印象・感想。もみじ園訪問者の間での認知度や関心の度合いも含めて。

桑原様 ご自身の印象・感想。ネットで越路地域の情報発信をされている立場から見て。

松本 産業史を専門とされる立場からの印象や感想。

学生 ゼミ活動で九郎翁のことを調べてみての印象や感想。

3) 越路地域の活性化について、各自の立場から見た良い点・欠けていると思う点・課題

白井様 神谷区長として。

新保様 行政の立場から。

廣川様 もみじの会の立場から。

桑原様 ながおか生活情報交流ネットの立場から

松本 他地域で生まれ育ったたちばから

4) 地方創生という観点から見た時に、高橋九郎翁から学ぶことは何か

各パネリストからそれぞれの考えを一人3分目安で話していただいた。

5) 高橋九郎翁のことを今後広め、地域の宝として行くには

白井様 神谷での今後の取り組みの計画や考えられるアイデアは何か。

新保様 越路地域の偉人の一人として、今後広めて行くうえで行政の立場からできることは何か。

廣川様 九郎翁、もみじ園、松籟閣の三点を有機的に結びつけて広めるのに必要なことは何か。

桑原様 様々な地域の活動を見てこられた立場から、必要と考えられるものはなにか。

松本 教育者、産業史の専門家として、九郎翁のことを越路地域で今後どのように取り上げていったら良いと考えるか。

学生 若者の立場から、九郎翁のことを若者に伝え、残してゆくには何が必要か。

6) 地域活性化について、長岡大学に望むことは何か

白井様、新保様、廣川様、桑原様から発言していただく。

7) 会場からの質疑・応答

パネリストの皆様からは、活発な発言をしていただき、とても有意義なシンポジウムであった。なかでも、もみじ園を観光資源として活用し、それに合わせて高橋九郎翁のことを伝えて行くには、若者目線に合わせた取り組みを考えてゆくべきである、これまでの活動から一歩も二歩も発想を広げた取り組みが必要であるなどの意見などは、とても新鮮な意見であった。

図表 5-3-2 シンポジウムの受付



図表 5-3-3 パネルディスカッション



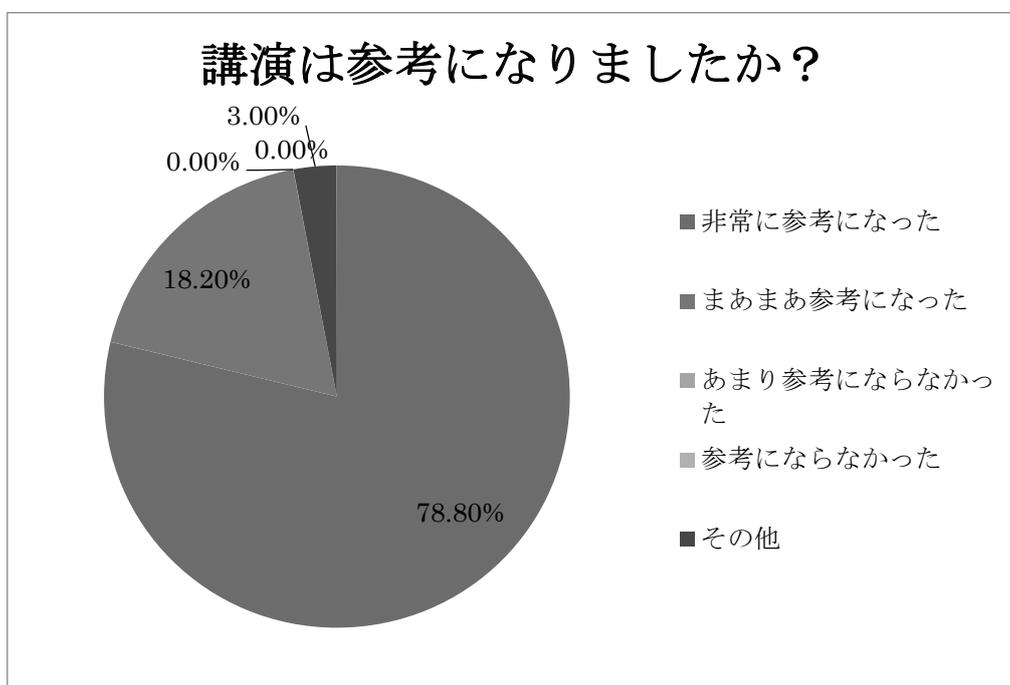
5. 3. 3 アンケート結果

シンポジウム参加から答えていただいたアンケートの結果は以下のとおりである。

問1 講演は参考になりましたか？

非常に参考になった	26	78.8%
まあまあ参考になった	6	18.2%
あまり参考にならなかった	0	0.0%
参考にならなかった	0	0.0%
その他	1	3.0%
計	33	

その他 神谷出身の為、初めて聞く話で良かった。

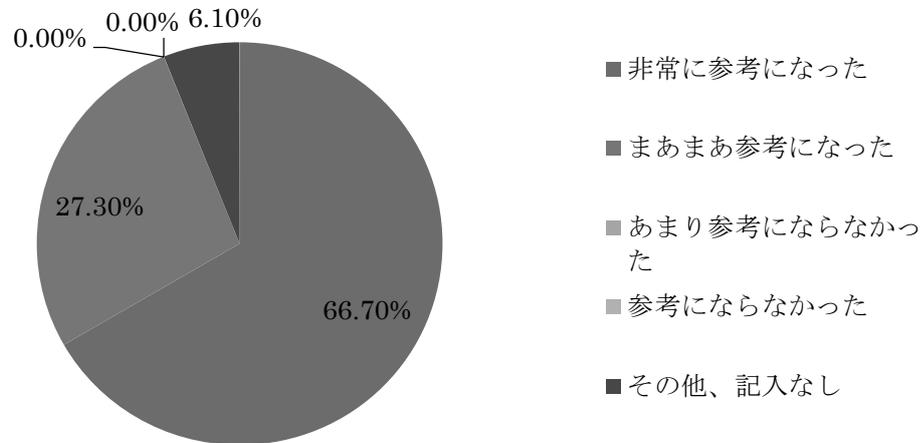


問2 パネルディスカッションは参考になりましたか？

非常に参考になった	22	66.7%
まあまあ参考になった	9	27.3%
あまり参考にならなかった	0	0.0%
参考にならなかった	0	0.0%
その他、記入なし	2	6.1%
計	33	

その他 関係者の方の御努力に感謝致します。

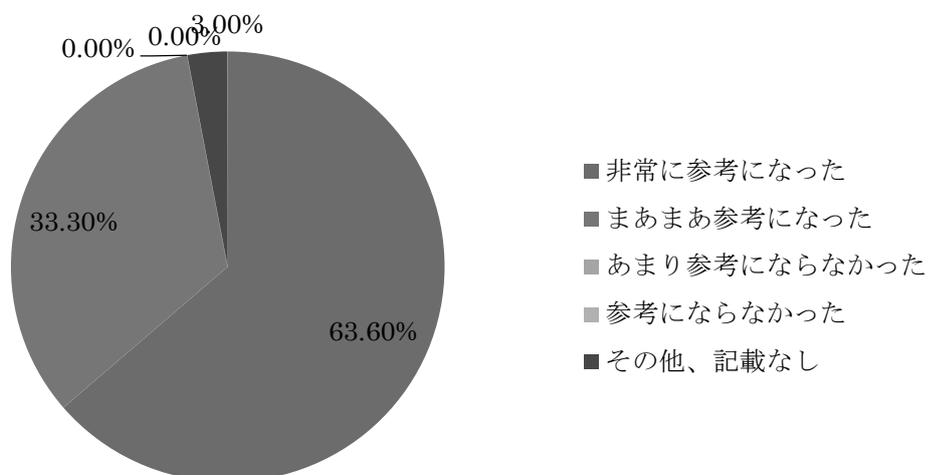
パネルディスカッションは参考になりましたか？



問3 シンポジウムの評価について

非常に参考になった	21	63.6%
まあまあ参考になった	11	33.3%
あまり参考にならなかった	0	0.0%
参考にならなかった	0	0.0%
その他、記載なし	1	3.0%
計	33	

シンポジウムの評価について？



問4 地域の活性化に役立つと思われるご意見、ご提案などを具体的にご記入ください。

地域活性化に役立つと思われるご意見、ご提案

- ・越路だけにとどまらず、せっかく合併したのだからALL長岡で考えたほうが良いと思う。旧越路地区にこだわりすぎていると思う。
- ・PRパネルを銀行や駅、役所などにも提示して市民に知らせてほしい。
- ・高橋九郎マップの風景写真のような歴史的な写真をもっと埋もれているものを掘り興し出来る様に進んで行ってほしい。
- ・企業（地域の歴史人物）行政、地域（集落）活性活動を実践されている内容を面的に結びつける事で更に役立つと思われる。
- ・地域貢献されてきた方々で高橋九郎様のような、強い心を持って推進されてきた方の生き様を紹介されると、とても力になると思うので、いろんな方々を紹介して、聞かせて頂きたい。
- ・高橋九郎の活躍の足跡を尋ねるツアーを春、秋に計画されたい。もみじ園→越路駅→信用組合跡→果樹園→松籟閣→蛍苑等
- ・松本先生のお話が大変良かったので、この内容が気軽に見られるように、インターネットで公表してほしい。
- ・もみじ園からの眺望がすばらしいものをもっと利用すべき。

感想

- ・現在の姿を歴史と共に感じる事が出来る。今回のようなシンポジウムを開催していただくと大変良いと思います。
- ・地域課題をさぐり、これまでのように活動を継続して欲しい。
- ・パネラー各位の提案（活動）から全てが役に立つと感じられた。パネラーから大学に要望のあった「継続的取り組みに同感した。
- ・歴史が判れば、未来が見える。したがって地域のことを大いに住民に知ってもらう必要がある、今後とも歴史教育に力を注いで欲しい。
- ・これからも継続して活動を深めて頂ければと存じます。
- ・越路町の生まれですが、高橋家の事が大変良く判りました。
- ・高広源の教えは現代でも生きている、活かしていけるものと実感しました。大変勉強になりました。
- ・地域を発展させた偉大な人達を、これからもどんどん紹介して欲しいと思います。
- ・教材化して個人的には偉人の小説、アニメ、映画化して欲しい。

問5 長岡大学のシンポジウムやフォーラムでとりあげたらよいと思うテーマ等ご希望がありましたら、ご自由にご記入ください。

長岡大学のシンポジウムやフォーラムでとりあげたらよいと思うテーマ

- ・地元ネタで昔話をするのはいかがと。
- ・地域毎の歴史（人物）を順次取り上げてください。

6. 成果発表会

今まで、高橋九郎についての説明は年表などの歴史や起業、功績の説明をするだけだったが、今年は今まで違った大きな活動ができた。

その活動というのは、もみじ園で行われたシンポジウムである。もみじ園は紅葉が有名で、地方からもたくさんの方が足を運んでおり、もみじ祭りという祭りも行われている。その中で、もみじ園の中心に建てられた高橋九郎の別荘がシンポジウムの会場であった。

成果発表会は、その様子を説明するだけではうまく伝わらないということから写真をふんだんに使用し、当時の様子をイメージできるよう工夫した。

発表を聞いていた方が少しでも興味を持ちもみじ園に足を運んでいただくことが、今回の活動と発表に大きな意味があると感じた。

アドバイザーの方からは、よくまとめて説明できていると言葉をいただいた。しかし、中間発表の際に楽しく発表したほうがいとアドバイスをいただいていたが、緊張していたために楽しく発表はできず勿体無い発表になってしまった。

7. まとめ

私たちは、昨年、神谷に足を運び泥んこ田などの行事に参加させていただいた。しかし、今年は悠久祭の行事と重なったり就職活動とぶつかるなどして神谷の行事に参加することができなかった。

今年度のゼミ活動は、昨年作成した高橋九郎マップを配布することから始まった。マップをより多くの方に見ていただけるよう、人通りが多い「まちの駅」などにおいてもらうことを考え、アポイントをとりマップを置いていただけるよう話し、マップを置いていただいた。どこのアポイントを取るのか分担を自分たちで話し合っ決めて、各自足を運び活動した。

初めは、ゼミ生一人ひとりが人任せであったために活動に遅れが出るなど、ゼミとしてまとまった行動ができなかった。しかし、もみじ園で行われた高橋九郎生誕165周年行事では、高橋ゼミとして活動ができた。ゼミ生一人一人がガイドとなって資料の説明を丁寧に行い、助け合いながら仕事を行うことができた。

一年間の活動を通して、高橋九郎に関する知識が増えたが、ゼミ生一人ひとりがそれぞれの役割を果たし活動することができたことが一番の収穫であった。もみじ園で行われたシンポジウムも高い評価を得て、非常に内容の濃い活動ができたと考える。

参考資料

越路町史 資料編 3 近代・現代、越路町、平成 11 年 3 月 31 日発行

越路町史 通史編 下巻、越路町、平成 13 年 11 月 30 日発行

創業百年史、株式会社 北越銀行、昭和 55 年 9 月 10 日発行

決定版 長岡ふるさと大百科、郷土出版、2005 年 10 月 1 日発行

越路町制 50 周年記念誌、29 項より、2005 年 3 月 20 日発行

高橋九郎 郷土長岡を創った人々、長岡市、2009 年 3 月発行

越路町 100 年の歩み、

(<http://www.e-net.city.nagaoka.niigata.jp/elibrary/ayumi/other/koshiji.html>)

平成 27 年度 学生による地域活性化プログラム活動報告書、長岡大学、2016 年 3 月発行

謝 辞

「高橋九郎マップ」作り、もみじ園でのパネル展示、説明、高橋九郎翁生誕 165 年周年記念シンポジウム開催の活動を進めるにあたり、神谷区長をはじめ多くの方々にお世話になりました。

本研究を進めるにあたり、ご指導頂いたアドバイザーの神谷区長 白井湛様、ながおか生活情報交流ねっと理事長 桑原眞二様、越路もみじの会会長 廣川篤様には、中間発表や成果発表会の際にアドバイスを頂き、またシンポジウムではパネリストとして参加していただきありがとうございます。シンポジウムで頂いた意見は、今後のゼミナール活動の参考にさせて頂きたいと思います。

資料展示とシンポジウム開催に際してお世話になった越路支所産業建設課課長 新保浩一様をはじめとする係の皆様、もみじ園の管理人の皆様、越路観光協会様、越路もみじの会様、(株)北越銀行様、J A 越後さんとう様、長岡市役所様、本学教授松本和明様に厚くお礼申し上げます。また、資料展示に際して、資料を快く貸し出してくださった神谷の歴史文化の会様、長岡市の井上道弘様、資料を寄贈してくださった内山弘様の御厚意に厚く感謝いたします。

マップの配置にご協力くださいましたまちの駅の皆様、そして様々な場面でお世話になりました神谷の住民のみなさんに感謝申し上げます。

活動全体を通して厳しくも優しい指導を賜りました高橋治道教授に感謝します。

たくさんの方に出会い、ご迷惑をおかけしながらも無事にこの 1 年間活動を続けることができました。この活動を通じて成長した私たちの姿をいつの日か、今回関わった方々にお見せするとき、それが初めて恩返しとなると考えております。これからも学生生活等を通してさらなる精進を行って行く覚悟でおりますので、ご指導ご鞭撻のほどお願いいたします。

協力していただいた皆様へ心から感謝の気持ちと御礼を申し上げたく、謝辞にかえさせていただきます。

長岡大学 学生による地域活性化プログラム 各プロジェクト報告書

1. 十分杯で長岡を盛り上げよう！ ～十分杯を、地域から愛される“問題児”に！？～
権 五景ゼミナール
2. 企業ホームページの改善による効果の確認
村山光博ゼミナール
3. 未来の農業革新Ⅲ ～地産地消を通じた循環型社会への貢献～
橋長真紀子ゼミナール
4. 地域の文化と伝統をつなぐ ～高橋九郎生誕 165 周年を記念する活動～
高橋治道ゼミナール
5. 長岡周辺地域の温泉資源の現状分析と情報発信 ～温泉☆ドキドキプロジェクト～
山川智子ゼミナール
6. グラスルーツグローバリゼーション ～草の根・地域からの地球一体化・人類一体化推進～
広田秀樹ゼミナール
7. 酒粕で長岡を盛り上げよう！ ～地域資源としての酒粕の可能性を探る～
権 五景ゼミナール
8. 「まちの駅」をフィールドとした活動等による地域活性化への貢献
鯉江康正ゼミナール

平成28年度 学生による地域活性化プログラム 高橋治道ゼミナール活動報告書

【発行日】 平成29年 3月22日
【発行人】 村山 光博
【発行】 長岡大学 地域活性化プログラム推進室
〒940-0828 新潟県長岡市御山町80-8
T E L 0258-39-1600 (代)
F A X 0258-39-9566
<http://www.nagaokauniv.ac.jp/>